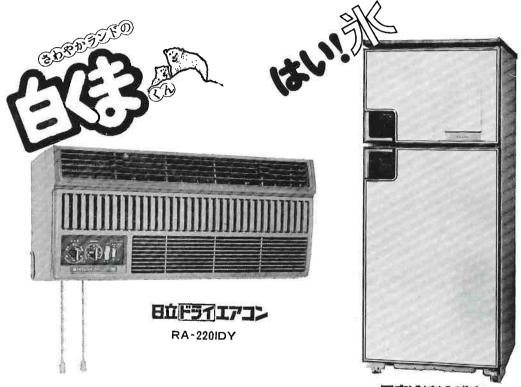
日本ハンドボール協会編

ハンドボール

通巻136号 昭和50年11月1日発行 毎月1回1日発行
昭和40年6月7日第三種郵便物認可

NO. 136
Nov. 1975

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

世界女子選手権代表決まる 島田,古佐原三たび出場

日本協会は10月11日東京で開いた月例常務理事会で、技術部を通じ女子ナショナルチームから提出された「第6回世界女子選手権代表選手名簿」を承認、国体開会式（27日、四日市市）で発表。代表選手はGK3、EP11のあわせて14名で7月に発表された今年度ナショナルチーム19選手（＝本誌133号参照）のなかからピックアップされたもの。

全員が今春のアジア予選（韓国及び東京）出場者である。

なお、監督は井薫氏（立石電機）、コーチは鈴木義男氏（田村紡）と決まった。団長は未定。

◇

第6回世界女子選手権は12月2日から14日までソ連・キエフ市を中心に12ケ国が参加して開かれ、上位4ケ国に、モントリオール・オリンピック出場権が与えられる。

アジア（日本）、アメリカ、アフリカ各国には、ここで仮に敗れても「3大陸代表（1ケ国）」と云う復活の道が残されているが、ヨーロッパ勢にとっては、オリンピックへの〝最後の道〟。すでに発表されている予選リーグの組み合せでは日本（前回10位）はルーマニア（2位）、チェコ（6位）、ノルウェー（8位）と同グループ。強敵揃いである。代表選手は島田（立石電機）、古佐原（東京重機）が、女子では日本選手として初の〝3回出場〟を果たすのが光る。

代表チームは大会前、東ドイツ転戦を予定しており11月12日午前11時40分出発する。

第6回世界女子選手権 日本代表団

▷監督	井　　薫	(37才 立石電機監督)
▷コーチ	鈴木 義男	(40 田村紡監督)
▷GK	和田 祥子	(23 立石電機)
	渡辺 久子	(22 日本ビクター)
	久保 徳子	(22 田村紡)
▷EP	島田 夏枝	(25 立石電機)
	古佐原ひろ子	(24 東京重機)
	蔵田 照美	(24 立石電機)
	山下 恵美子	(22 立石電機)
	松下 仁美	(21 田村紡)
	菊地 春美	(22 東京重機)
	加藤 美起子	(20 日本ビクター)
	額賀 美恵子	(23 日本ビクター)
	穂積 美保子	(20 日本ビクター)
	河田 栄子	(20 田村紡)
	紀野 奈々美	(19 立石電機)

＊団長は未決定　＊選手の球歴は12頁

モントリオールへの道

世界—モントリオールへつながる12月の世界女子選手権（キエフ）に出場する代表選手14名が、上掲のように発表された。

女子の国際舞台は、いちぢ、世界選手権の流会などもあって、ブランクがつづいたが、最近は順調に回転、2年に1度、世界選手権が開かれている勘定だ。

ところで今回の大会は、これまでとちがい、上位4ケ国にモントリオールへの切符が与えられるとあって、早くも異常な熱気が伝わってきている。

近代ハンドボールは、もともと女子球技として考案された、という説もある。

しかし、一九三六年（昭11）のベルリンオリンピックをはじめ国際的な脚光は、つねに男子に浴びせられていた。

その女子ハンドボールにようやく春が来た感じである。キエフ大会は素晴しい大会になるだろう。

さて、日本チームの実力はどうか——日本協会は、男女揃ってのオリンピック参加を宿願としている。3年前、男子のミュンヘン出場は、若い愛好者たちに大きな励みを与え、競技人口の増加につながった。

モントリオールでもう一押しと考えるのは当然であろう。

日本女子に対するヨーロッパ関係者の評価は高く、パワーで押しまくるどちらかと云えば大味（おおあじ）なヨーロッパ勢に対してスピード、クイックプレーの日本は注目に価する存在だ。

だが、今回の組み合せは、率直のところ、過去4回の出場時とは比べものにならぬほど、手強い相手に囲れている。苦しい道のりと云わねばなるまい。

相当の緊張感、切迫感がただよってしかるべきだが、日本協会関係者の一部に、来年の「3大陸代表決定戦」をアテにしたムードがあるのは危険だ。

井監督が「密室試合までして手に入れた出場権。あくまで上位入賞を果たしたい」と斗志を燃やしているだけに、よけいその気持ちの差が気になる。

日本協会は万全を期して送り出すべきである。

ことと次第によっては、今回の成績が、オリンピック参加へのキャスティングボートを握るJOC（日本オリンピック委）の査定に影響することもあるだろう。

モントリオールへの道は、いついかなる時も「楽観」は許されないのだ。（Z）

「ハンドボール」50年11月号（第136号）目次

【表紙写真】プレオリンピック・ソ連×デンマーク戦（10月2日、モントリオール）＝全日本男子選手団提供。

オリンピック男子アジア予選

IHF「5ケ国集結案」捨てる

日本協会・荒川清美理事長は10月11日の月例常務理事会で、プレオリンピックの帰国報告を行い、注目のモントリオール・オリンピック男子アジア予選について、IHF（国際ハンドボール連盟）は5カ国集結による2回総当り戦という路線を変更、変則的なトーナメント法式（ナックアウトシステム）を採る意向であることを明らかにした。

IHF案は「まず、日本・韓国・台湾でリーグ戦。その勝者とイスラエルが対戦。さらに、その勝者とクウエートが4月上旬、アジア代表権をかけて争う」というもので、IHF事務総長、M・リンケンバーガー氏（西ドイツ）は、「第1ラウンドの3カ国リーグは、来年3月台湾で開きたい」と述べた、という。試合はいずれも2回戦。

5カ国集結法式に難色を示し、「デヴィス・カップ（テニス）法式」をかねてから提案していた日本協会は、その線に近づいたものと、IHFの新案を評価したが、第1ラウンドの開催地に台湾が予定されているため、「中国は一つ」の原則を支持する日本体協、JOC（日本オリンピック委）の態度に低触することとなり、荒川理事長がモントリオールでリンケンバーガー氏に要望した「韓国―台湾の勝者対日本」の提案が通らなければ、新たな難局に立たされる。

なお、本誌〆切り（10月23日）までに、IHFからアジア予選に関する公式文書は届いていない。

「台湾開催」なら新たな難題

セントラル法式とも呼ばれる5カ国（日本、韓国、イスラエル、クウエート、台湾）集結を、IHF自からが御破算とし、変則的ながらも、勝ち抜き法式を採ろうとしているのは、ようやく〝アジアの事情〟をのみこんできたにほかならない。

そうでなければ、正規の手続きで、予選会誘致を名乗りでたイスラエルにいっさいをゆだねたハズだ。

荒川理事長も、リンケンバーガー氏から、IHFの新しい意向を聞いた時「原則的に了解」（本誌4〜5頁・モントリオールリポート参照）としている。

IHFは、新提案を5カ国に示した上、11月上旬に正式発表へこぎつける予定だが、日本協会の課題は、むしろ「台湾」に移ったとみてよい。

中国が日本体協に対し「日中スポーツ交流に関する原則の再確認」を求めていることは、リンケンバーガー氏との会見後、帰国挨拶に立ち寄った在モントリオール日本領事館で「日本の新聞によって知った」（荒川理事長）が「オリンピックや世界選手権での対戦は予選を含めて適用外」（同）との〝判断〟があった。

日中スポーツ交流に関する原則というのは、

①日本で開く国際大会に台湾を呼ばない

②日本は、台湾で開かれる国際大会に参加しない

③台湾が参加する大会は、第三国で開かれた場合でも、日本はなるべく遠慮する

の3点で、JOCは47年11月の総会、日本体協は同12月の理事会でこの原則（統一見解）を承認しており、日本ハンドボール協会は、48年1月21日の全国評議員会、同理事会（東京＝本誌105号参照）で「JOC、日本体協の意思と見解を尊重」することを決議した。

この時、原則のうちの③を受けて確認した「世界選手権、オリンピックなどの予選で、台湾との対戦がさけられぬ場合、これを拒むものではない」が、荒川理事長の頭の中にはあったのである。

現実に、今春2月、大邱（韓国）で行われた第6回世界女子選手権アジア予選Aグループで、日本は台湾と対戦している（28―6、45―4で2勝＝本誌128号参照）。

しかし、今回のケースは、③はともかくとしても、②に低触するもので、常識的には特例は認められず、月例常務理事会でもこの点が論議となり、JOC、日本体協の考えをただす一方、荒川理事長が、リンケンバーガー氏に「韓国―台湾の勝者と日本の対戦」を提案している（本誌4頁参照）こともあって、IHFの公式文書を待ち、改めて善後策を協議するとした。

◇IHF新提案の予選法式

アジア代表
- クウエート
- イスラエル
- リーグ（日本・韓国・台湾）

男子ナショナル（50年度）19名を発表

日本協会は、発表の遅れていた「50年度ナショナルチーム」19名を「モントリオール第2次候補選手」として、このほど別掲のように決めた。

これは、日本協会・荒川理事長渡辺技術部長、竹野全日本男子監督の話し合いによるもので、「昭和49年度ナショナル」21名（＝本誌125号参照）のなかから有永（東京海上）と新実（本田技研鈴鹿）両左腕をはずし、モントリオールオリンピックへ向けて、即戦力中心の色をいっそう強めている。

竹野監督は「10月末から国体、全日本学生、全日本総合と三つのビッグエベントがつづくので、有力選手がいれば追加したい」と要望、荒川理事長らも「5名以内」を条件に了解しているので、このあとの動きにも注目が集る。

19選手のうち、木野はナショナル入りが41年9月だから、実に10年連続の快記録。（注・飯田も41年9月組だが48年度メンバーにもれている）

なお、昨年度にとられたA・Bの枠は今回はずされた。

○…昭和50年度男子ナ…○
…ショナルチーム

▽GK 本田　洋（大阪イーグルス、28才、179cm、公式国際試合出場50回）

▽GK 柴田正章（法政大4年、22才、186cm、公式国際試合出場5回）

▽GK 斉藤将一郎（日体大4年22才、187cm、公式国際試合出場5回）

▽FP 木野　実（湧永薬品、29才、181cm、公式国際試合出場59回＝198得点）

▽FP 飯田信行（大崎電気、30才、188cm、公式国際試合出場44回＝74得点）

▽FP 藤中憲二（大同製鋼、27才、179cm、公式国際試合出場39回＝103得点）

▽FP 中井武三（大同製鋼、26才、180cm、公式国際試合出場37回＝75得点）

▽FP 花輪　博（大同製鋼、25才、177cm、公式国際試合出場17回＝20得点）

▽FP 佐藤要二（本田技研鈴鹿26才、179cm、公式国際試合出場21回＝88得点）

▽FP 佐々木健一（三景、25才170cm、公式国際試合出場8回＝1得点）

▽FP 菊池　悟（東京12チャンネル、23才、186cm、公式国際試合出場20回＝23得点）

▽FP 蒲生晴明（中央大4年、21才、192cm、公式国際試合出場20回＝26得点）

▽FP 松原光三（大同製鋼、25才、180cm、公式国際試合出場4回＝2得点）

▽FP 村田幸男（法政大4年、22才、176cm、公式国際試合出場17回＝7得点）

▽FP 柳川　実（大同製鋼、21才、175cm、公式国際試合出場13回＝18得点）

▽FP 穂積豊彦（湧永薬品、23才、180cm、公式国際試合出場4回＝8得点）

▽FP 津川　昭（湧永薬品、24才、180cm、公式国際試合出場1回＝得点0）

▽FP 斉藤幸司（日体大4年、21才、175cm、公式国際試合なし）

▽FP 平野　稔（海上自衛隊下総、22才、180cm、公式国際試合なし）

12月10日から「全日本総合」（東京）

今年のナショナル・チャンピオンチームを決める第27回全日本総合選手権は、男子16、女子12チームを集めて12月10日から14日まで東京体育館で行われるが、各加盟団体の推せんチームが次々と発表されている。

全日本学連代表（男3、女2）は11月9日に発表される予定。予選ラウンドの組み合せ決定は11月11日（東京）。

本誌〆切りまでに発表された推せんチームは次のとおり。

【男子】▽日本協会推せん（前年度優秀チーム）＝大同製鋼（愛知）、三景（東京）、▽全日本実連推せん＝湧永薬品（大阪）、本田技研鈴鹿（三重）、大崎電気（埼玉）、三陽商会（東京）、▽全日本教職員連推せん＝大阪イーグルス（大阪）、大阪教員ク（大阪）、▽全日本自衛隊連推せん＝海上自衛隊下総（千葉）、▽全国高体連ハンドボール部推せん＝清水高（千葉）

【女子】▽日本協会推せん（前年度優秀チーム）＝東京重機（東京）、日本ビクター（茨城）、▽全日本実連推せん＝田村紡（三重）、立石電機（熊本）、ブラザー工業（愛知）、▽次年度国体開催地代表＝佐賀一般女子ク、▽全国高体連ハンドボール部推せん＝小松市立女高（石川）

前売券を発売

全日本総合選手権を主管する東京協会（品川区五反田2の2の7、03―443―七一七一）では入場券の前売りを開始した。入場料は一般400円、高校生200円、中学生100円。（当日売りは各100円増）

モントリオール・リポート①

荒川清美
（代表選手団々長
日本協会理事長）

◇アジア予選問題

今回の私（団長）の責務は、選手団の引卒もさることながら、日本協会周辺に横たわる国際問題―アジア・ハンドボール界を軌道に乗せるための話し合いも、大きな課題であった。

そこで、この問題から報告させていただこう。

大会には、ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）技術畑の大御所Ｅ・ホルレ（スイス）、Ｉ・クンスト、Ｌ・グリゴレスク（ともにルーマニア）のほか、予想どおり運営サイドの重鎮とも云うべきＶ・クリフコフ次席副会長（ソ連）、Ｍ・リンケンバーガー事務総長（西ドイツ）、Ｆ・ペップ マイヤー事務局長（スイス）らも招かれており、少し遅れてＰ・ヒョークベルク会長（スウェーデン）が到着、アジア選出理事の渡辺和美氏（日本）も、観戦のため姿を見せていた。

ＩＨＦの会議は、今回はいっさい予定されず、それだけに私は、1年ぶりに顔を合せた彼らと忌憚のない意見を交すことができた。

そうしたなかで、リンケンバーガー、ペップマイヤー両氏と公式会談したのは9月30日午後、今回の〝選手村〟に当てられていたヴェザードホテル内のモントリオール・オリンピック組織委員会出張所の会議室であった。

リンケンバーガー氏は、アジアのハンドボール動向について、ＩＨＦは以前と変わらぬ深い関心を示していることを強調し、それだけにアジアに、競技以前に解決しなければならないことがあるのを極めて重要に受けとめていると述べた。

これを受けて私は、この会談の最大ポイントに置いていたオリンピック男子アジア予選について切り出したが、彼は卒直に「頭を痛めている」と云い、現在、開催地として立候補中のイスラエルに、5ケ国（編集委注・日本、韓国、イスラエル、クウェート、台湾）が集結して予選を行う、いわゆる「セントラル法式」は困難とみて白紙に戻す意向を明らかにした。

私（日本協会）にとっても、これは当然予想されたことである。日本協会が当初から提案していたデヴィス・カップ法式（いわゆるトーナメント）の採用を、ここで改めて述べたが、それでも、問題は解決しないというのがＩＨＦの考えかたであることも判った。

アジア二分案の布石狙う

それならば、ＩＨＦはどう解決しようとしているのか。

彼らは、今回の予選を一つのきっかけにして、かねてから示しているアジア二分案〜「極東」「近東」〜を、一気に成立させようと考えていたのである。

この二分案は、今年1月、クウェートでＩＨＦ首脳が集った時、「アジアのために、もっともよい方法」ということに落ち着いたもので、私も2月韓国で渡辺氏からその主旨を聞かされていた。

インドを境にして西アジア（近東）、東アジア（極東）に分けるのは、広域なアジアの実情にそったよいアイデアであり、実現へさしたる難関もないのではないかと思えたものだ。

ところが、その後いっこうに事態は進展せず、正式決定は、来年のＩＨＦ総会まで棚あげ、という声も聞かれていた。

ＩＨＦは、オリンピック予選でのくすぶりを解消するのに、この懸案を持ち出して来たわけである。

さらに予選に関するリンケンバーガー氏の提案は、私の意表をつくものであった。

即ち「極東、近東二分案をベースにして、極東は日本、韓国、台湾それにイスラエル、近東はクウェートとする。

極東はさらに日・韓・台のサブグループとイスラエルに分ける。

日・韓・台の勝者がイスラエルでイスラエルと対戦、その勝者がクウェートでクウェートと対戦する」（編集委注・本誌2頁参照）

いぶかしげな私の表情を読みとったのか、リンケンバーガー氏は「日本はイスラエル、クウェートと対戦してくれるだろう」と笑ってみせた。

なんのことはない。ＩＨＦは、日本の実力を見込んで「日本は各国をサーキット、アジア代表権を手にせよ」と云っているのだ。

三つの条件を示す

「原則的にＯＫ」と云うのが私の判断であった。

そして①日・韓・台のサブグループの開催は、日本で引き受けない。②韓国×台湾を先に行いその勝者と日本という案は考えられないか。③もし日本がイスラエルさらにクウェートと〝転戦〟する場合はその航空費は、イスラエル、クウェートで負担してもらうことの三点を私は条件として望んだ。

書記を兼ねてこのやりとりを聞いていたペップマイヤー氏は「日本は、タダで近東を廻れるではないか。巧い手だ」とニャリとしたが、リンケンバーガー氏は「コペンハーゲンで開く次回の常務理事会で、その提案を受け入れるよう検討したい。もちろん、イスラエルとクウェートにはＩＨＦから通知する。サブグループの開催地は台湾に打診中だ」と云ってくれた。

暗雲が立ちこめ、いつ晴れるか判らないとみられていた「予選問題」は、どうにか曙光を見出すことができた。

もちろん、サブグループの開催地として台湾が引き受けるかどうか、日本のシードが認められるか、イスラエル、クウェートのでかた、特に、6月に開催誘致を表明したイスラエルが、どのような態度をとるか――など残された問題も少くはないが、私がここまで足を運んだ甲斐はあったと思う。

ＡＨＦ問題は前進見せず

もう一つのアジア問題。中国、クウェートなどが積極的に推進し

ているＡＨＦ（アジアハンドボール連盟）結成問題については、リンケンバーガー氏は、「そのことははっきりしている」の一点張りだった。

ＩＨＦは、あくまでアジア二分案を最善のものとし、準備中のＡＨＦを認めず、４月に「規約廃棄」を勧告したことを〝絶対のもの〟としているのである。

ＡＨＦ準備側が、10月18日クウェートで会議の開催を予定していることも、ＩＨＦは知らない。

したがって、今回はこの件について、私は、これまでどおりのＩＨＦの姿勢を聞かされただけに終ってしまった。

なお、イスラエルは、アジア地域から、ヨーロッパ地域への移行（復帰）を希望していることが確認された。

来年のＩＨＦ総会で審議されるが、ヨーロッパ側に〝拒否反応〟も強く、リンケンバーガー氏は「努力してみる」と言葉少なかった。

このほか、ペップマイヤー氏から「オリンピック予選のサブグループ開催時に「極東」のプレジデントを決めてはどうか」と提言されたが、私は「極東」に所属を予定されるインド、ホンコン、朝鮮民主主義人民共和国らも顔を揃えた席で話し合うべきだとの見解を述べ、同意を得た。

2月の密室試合（世界女子予選決勝・日本×イスラエル、東京）については、特に誰からも問いかけはなく、アメリカ選手団が、バスで同行中の日本選手に質問した程度だった。

◇プレオリンピック

さて、プレ・オリンピック（モントリオール国際ハンドボール競技会）は、本大会の予行らしく、極めて慎重に運行された。

分刻みといってもよいスケジュール表が渡されたほか、まるで幼児に道順を教えるような入場式の運営図など、準備は微にいり、細にわたった。

プレ・オリンピックは、6月から各競技バラバラの日程で行われており、最初の頃は、選手団を乗せて帰るべきバスが、カラで帰ってしまったり、500人程度の観客しか集まらなかったこともあったようだが、ハンドボールではそうした手落ちはほとんどなく、ホステスがびっくりするほどのファンを各会場で集めた。

正直のところ、本場・ヨーロッパを離れて、ハンドボールがどこまでできるのか不安をもっていたのだが、どうして、本番ではミュンヘンに優るとも劣らない雰囲気で大会は進められそうだ。

競技の運行もまずまずで、オフィシャル・ボックスにはグリゴレスク、クンスト両氏が、全試合つきっきりで指導を行っていた。

カナダにおけるハンドボールの普及は未だしと伝えられ、事実、ブリティッシュ・コロンビアとの親善試合（遠征第1戦）の観客は100人いるかいないかだったが、大会では熱気がみなぎり、スポーツ好きの国民らしく、勘所（かんどころ）を逃さぬ観戦ぶりだった。

特に、試合が終って選手がコートから完全に姿を消すまで送りつづけられる拍手は感動的で、ムードをいっそう素晴しいものにした。

この拍手を見聞したことで、日本の選手たちは「来年も是非来たい」という気持ちをいっそう強く植えつけられたようだ。

私もモントリオールオリンピックは成功するとみた。

こうした点に引きかえ、施設工事の遅れは報道以上のものがある

主競技場は突貫工事中だが、渕から見るのがやっと。主体育館も素人眼で四分程度のできだ。

これで間にあうのか、と人ごとながら気になるが、関係者は大丈夫と自信たっぷりだった。

既に、施設完備のアイスホッケー・アリーナが各所にあるのも自信の背景となっている。特に高名なプロチーム「モントリオール・キャナディアンス」のホームリンク「フォーラム」は一万六千四百のシートを持つ大殿堂。選手村からも10キロと近く、ハンドボールバスケットボール、ボクシングなどの決勝はここが使われる予定。

今回は、ケベックはレバル大学体育学部ご自慢の近代体育館、シャーブルックはアイスホッケー場と本番どおり。モントリオールだけはモントリオール大学アイス・アリーナが会場とされた。いずれも平生はアイスホッケー場として使われており、ハンドボールの時は、白いフェンスに囲れたフィールドに「タラフレックス」というグリーンのフロアが敷かれ、そこへ白いラインが浮き出した風景はヨーロッパのハンドボール場では味えぬ独特の華麗さがあった。

速さ、速さのハンドボール

最後になってしまったが、競技面における世界の技術の急速な変化に、私は驚異を感ぜずにはいられなかった。

システムハンドボールにいちだんとスピードが加って、もはや「ミュンヘンのハンドボール」は、過去の流れでしかなかった。

とにかく速い。速さのハンドボールである。

パス・アンド・ダッシュであり、キャッチ・アンド・ダッシュである。

特にチャンスメーカー役にまわる小柄（170〜185cm）な選手のエリア前の走りは、みごとというほかはない。

逆襲時、サイドマン（ウィング）の出足の速さも抜群である。

ディフェンスでは、詰めの早さにこれが変る。しかもボディチェックを効果的に使う。

速さと早さとパワー。ソ連×ポーランド戦はその極致であった。

しかし、この速さは、かって日本のお家芸ではなかったのか。

クンスト氏も私と同じ意見だったし、ソ連のＡ・エフトチェンコ監督も、それを認めた。

彼らは、自分たちのパワーに、日本の速さを加えたのだ。

それに引きかえ、日本は組織戦法にこだわり、スピードを忘れかけている。

今後、強化を進めていくうえにこれは大切なテーマである。参加の意義は大であった。

ＧＫは、キャッチする、はじくというより、両手を大きく拡げ腕でシュートを当て落とすようなタイプが多い。現今のスピードにはこれでなければ対応できぬのかも知れない。球出しは一瞬の間（ま）をおかぬ速さである。

チームとしてはソ連がやはり最高。有力な金メダル候補だ。彼らは「東ドイツが一番」と云っていたが……。10ケ月後に、男女全日本が揃ってこの地を訪れることを誓いながらモントリオールをあとにした。

（10月4日記）

◈モントリオール・リポート②

精神力の再養成を痛感

竹野　奉昭
（全日本男子監督）

本格的2m選手登場

一九七五年カナダ国際ハンドボール大会（プレオリンピック）は九月二六日〜十月二日までモントリオール市を中心に、ケベック市シェーブルック市の三都市で行なわれた。

参加国は日本、ソ連、ポーランド、デンマーク、アメリカ、そして地元カナダの六ケ国で優勝は五戦全勝のソ連、二位ポーランド、三位デンマーク、日本は二勝三敗で、アメリカ、カナダに決快こそすれ上位三チームの一角を崩すことが出来なかったことは誠に残念であった。

世界の大型化は更に進んでいる

今大会に参加した六チームの内でも日本、カナダを除く各国とも一九〇糎を越す選手を五人以上も要しており、彼らがリズミカルでスピーディーな動きと強力なシュート力を持っていた。特にソ連の二米二糎のチェルニシムのそれは昨秋来日した東独のケーラートの比ではなかった。又攻防のスピード化がなされており即ち、攻撃に於いては速攻の多用化であり、サイドへの展開の速さであり強引なシュートであった。防禦面では両サイドのディフェンスが早い出足でサイドにボールを入れさせない浮いた型、即ちスリバチ型ディフェンスで一九〇糎台をエリアラインに並べて相手の攻撃の巾を狭ばめて中央で勝負させる（＝カット写真参照）つめ、フォローの早さであり強いてはそれが先述の攻撃面に於ける速攻の多用につながっていた。

積極的ディフェンス完成へ

日本は比較的スピードに欠けるアメリカ、カナダには対処出来たが上位三チームには逆にスピードがおとっていたように思える。

ディフェンスに於いては体力のある前半は彼らのスピードにつくことが出来たが、体力の消耗と共に個々孤立化し、強引なカットインプレーに屈した。攻めては日本が特意とされていた速攻に威力がなく、スカイプレーを始めとするサイド攻撃が思うに任かせず、結果的に攻撃の巾が狭められていたし、考えられない凡プレーも時に見られた。

私は今大会に積極的ディフェンスの守り（攻めのディフェンス）と、ボールの持たないプレイヤーの迫力ある攻めの動きを重点課題として望んだ。

積極的ディフェンスとは、早いつめによって相手の動きを封じ、方向づけ、続いて適確なフォローが出来ることであるが、今大会について云えば建設途上であり、未完成であった為に今まで以上の大量失点に結びつく要因となったようにも思える。

しかしながら進み行く世界の現状を考慮する時、積極的ディフェンスを更に押し進めなければならないと確信している。「出足の鋭どさ」「戻る早さ」「声の連絡」「フォローの連続」これらが体格差を克服する守りの術であろうし、率いてはこれが速攻へ結びつく最良の方法であると考える。

速攻の多様化が急務

攻撃については適確なフォローと判断、そしてスピードである。これらは今更改めて論ずるまでもないことだが、大試合に於いても徹して出来ることである。

速攻の多様化とポストプレイの確立が急務である。

速攻の多様化は前述のようにディフェンス力の強化の上に立つものであり、ポストプレイとは単にポストマンの動きだけに止まらずサイドと連絡のとれる動きのあるプレイでもある。

以上述べた攻守の技術以上に精神的要素の重要性を特筆したい。

今大会においても連日長距離バスでの移動で翌朝午前二時三時に宿舎に戻るという強行スケジュールであり、その中でのコンディションの調整には苦労が多かった。しかしながら各国も同じ条件であることを考えれば、如何なる条件にも対応出来る人間作りと、ナショナリズムに徹することの出来るチーム作りを改めて痛感した次第ですある。

精神力の上に立つ技術であり、技術に裏付けされた精神を持てる選手の育成を図りたい。

控え審判員の権限明確に

審判面について感じたことは、ハンドボールのスピード化にともない控え審判の権限がはっきりしているようで、メンバーチェンヂの不正に厳しい判定を受けた。

又攻める意志が欠けたと見なされた時、攻めあぐんだ時にストーリングがちゅうちょなくとられたし、フリースローでも一、二注意すべきこともあった。

終りに私達の今大会に参加するに当り、全国のハンドボール愛好者のご声援とご支援に対し厚く御礼申し上げます。

私達は今大会の貴重な体験の上に立って近づくアジア地区予選、そして来年七月のモントリオールオリンピックに向って精進、努力し更に頑張る覚悟でございます。

尚カナダ滞在中バンクーバーにおいて湧永薬品カナダ駐在の西浜様、モントリオール大会中は組織委員会から派遣の大久保嬢の献身的な御厚意に対し紙面をお借りして御礼申し上げます。

（了）

日本、欧州勢の壁崩せず4位

モントリオール・オリンピックの前哨大会「1975年モントリオール国際ハンドボール大会」（プレオリンピック）は9月26日から10月2日まで，日本をはじめ6ケ国が参加して開かれた。各国とも本番を目指すベストメンバーを送りこみ好内容の激戦をくりひろげたが，ソ連が前評判どおりの実力で5戦全勝。“カナダ・カップ”を手にした。

日本は欧州3強の壁を崩し得ず2勝3敗の4位だった。なお大会前，バンクーバーで親善試合を行い快勝。遠征の通算成績は3勝3敗。代表チームは10月5日午後7時35分，元気に帰国した。

ソ連全勝優勝・プレオリンピック

日本、後半に力つく

第1戦・ソ連との試合は9月26日午後8時30分からケベック市・レバル大学球技館で行われた。審判＝K・オルソン、J・ロヂィル（ともにデンマーク）。観衆＝二千。

ソ連 28（16—6, 12—7）13 日本

	【ソ連（身長）】		得
GK	イチェンコ	191cm	0
GK	トミン	189	0
FP	マキシモフ	186	4
FP	リアザノフ	197	2
FP	セルツナエフ		1
FP	クラフトソフ	174	3
FP	クリモフ	189	1
FP	ラグティン	184	5
FP	プロホティン	186	3
FP	チェルニショフ	202	4
FP	チクン	196	1
FP	キドヤエフ	175	5
PT	（4）		28

得	【日本】	
0	本田	GK
0	柴田	GK
1	木野	FP
4	藤中	FP
1	中井	FP
2	佐藤	FP
0	花輪	FP
2	村田	FP
1	菊地	FP
2	柳川	FP
0	蒲生	FP
0	松原	FP
13	（0）	PT

前半20分までの抵抗が精一杯でソ連の体力とスピードに圧倒された。日本は4分30秒速攻で村田が先取点をあげ幸先よいスタートを切ったが、7分、8分とソ連の強引なカットインプレー、10分にはペナルティゲットで1—3と逆転された。14分に中井がよまくサイドに廻り込んで2—3と迫ったが頼みのディフェンスが安定せず、フォローが悪く、孤立状態になり除々につき離された。特に22分〜26分までの2つの速攻と2m選手チェルニショフのロングシュートで4—10とされたのが大きい。

後半もソ連の両サイドが浮く、即ち190cm以上の4選手をエリアに並らばせたスリバチ型ディフェンスを破ることが出来ず、更に後半4分〜17分までに速攻を含めた8ポイントを落とした。日本は比較的カットも出来、速攻チャンスがあったにも拘らず反撃出来なかったことが悔やまれる。積極的ディフェンスで対応したので緊迫感はあったが、遺憾ながら完敗であった。（東 嘉伸・全日本男子コーチ）

ポーランドが底力

第2戦・ポーランドとの試合は9月28日午後2時からモントリオール大学アイスアリーナで行われた。審判＝O・シュルツ、H・シュルツ（ともにカナダ）。観衆＝三千。

ポーランド 29（17—7, 12—8）15 日本

	【ポーランド】		得
GK	スジムザク	193	0
GK	ロスミアレク	181	0
FP	アントサク	188	3
FP	ククタ	190	1
FP	クレムペル	192	11
FP	プロゾヴスキー	173	3
FP	シイエスラ	185	0
FP	ディボル	172	2
FP	メルセル		2
FP	ソコロフスキー	192	0
FP	グミイレク	177	4
FP	カルジンスキー	190	3
PT	（4）		29

得	【日本】	
0	本田	GK
0	柴田	GK
3	藤中	FP
4	佐藤	FP
1	木野	FP
3	花輪	FP
0	村田	FP
1	蒲生	FP
2	菊地	FP
0	穂積	FP
1	中井	FP
0	飯田	FP
15	（0）	PT

25分までの日本の攻防はすばらしいものであった。

前半5分佐藤が寅ノ子のペナルティを落とし分にはシュートカットがノーマークシュートにつながる不運もあり0—3とされたが、日本もよく守り、走り花輪の速攻をきっかけとして佐藤、藤中が打ち込み2—4、3—4、3—5、4—5、GK本田がよく踏んばり17分5—5となった時は館内もわきにわいた。

しかしこの後すぐに2本のPTをとられ追い越すことが出来ず、その後クレンペルに27、28、29分と打ち込まれつき離された。日本にとっては4本のが痛かった。

後半はポーランドのペース。フットワークの美しい強固なディフェンスを日本が攻めあぐんでいる後半2分〜7分の間に速攻を含む4点をとられ8—16、更に15分までに一気にたたみ込まれ勝機を失した。

ポーランドの組織的なディフェンスと速攻そしてクレンペルの左腕の前に屈した一戦。（東 嘉伸）

鋭さ欠いた日本3敗

第3戦・デンマークとの試合は9月29日午後7時からケベック市・レバル大学球技館で行われた。審判＝O・シュルツ、H・シュルツ（ともにカナダ）。観衆＝二千。

デンマーク 33（18—7, 15—6）13 日本

日本の攻防のまずさが全てであった。3分蒲生のロングで先駆点をとり良いスタートをきったがデンマークの強引なロングシュートとカットインに10分とあっさり逆転された。ディフェンスラインが定まらずサイドより簡単に割り込まれ、ロング、速攻を混じえて15分〜20分、26分〜30分に、それぞれ4ポインづつ連続点をとられ予想だにしなかった6—15の最悪の状態で前半を終えた。

余裕を持ったデンマークは後半も思いきったプレーで日本を攻めまくり、守りも当りが強く入り込むスキを与えなかった。6分〜16分間の9失点はテクニック以前のものであるように思えた。

F・ハンセン、A・ニールセンは共に195cmで体重もあり、シュートフイントからのカットインに威力があり、ソ連、ポーランド程の精密さはないがその馬力は力強い

プレオリンピック勝敗表

	ソ	ポ	デ	日	ア	カ	P	勝	分	負	得	失
①ソビエト	…	○	○	○	○	○	10	5	0	0	101	51
②ポーランド	●	…	○	○	○	○	8	4	0	1	143	79
③デンマーク	●	●	…	○	△	○	5	2	1	2	122	99
④日本	●	●	●	…	○	○	4	2	0	3	89	119
⑤アメリカ	●	●	△	●	…	△	2	0	2	3	76	114
⑥カナダ	●	●	●	●	△	…	1	0	1	4	78	131

プレオリンピック日本代表団

▽団　長	荒川　清美（日本協会理事長）				
▽監　督	竹野　奉昭				
▽コーチ	東　　嘉伸				
▽GK	①本田　　洋	（28才	大阪イーグルス	179cm）	・
	⑫柴田　正章	（22	法政大4年	186cm）	・
▽FP	②木野　　実	（29	湧永薬品	181cm）	⑫
	③藤中　憲二	（27	大同製鋼	179cm）	⑲
	④中井　武三	（26	大同製鋼	180cm）	⑪
	⑤佐藤　要二	（26	本田技研鈴鹿	179cm）	⑳
	⑥花輪　　博	（25	大同製鋼	177cm）	③
	⑦松原　光三	（25	大同製鋼	180cm）	①
	⑧菊池　　悟	（23	東京12ch	186cm）	④
	⑨村田　幸男	（22	法政大4年	176cm）	②
	⑩蒲生　晴明	（21	中央大3年	192cm）	⑤
	⑪柳川　　実	（21	大同製鋼	175cm）	③
	⑭穂積　豊彦	（23	湧永薬品	180cm）	⑦
	⑯飯田　信行	（30	大崎電気	188cm）	0

・選手名左の○内数字は今回の背番号
・右欄の○内数字はプレオリンピック5戦の得点

ものであった。なお、後半、菊池の右角を狙ったシュートを低目にヤマをはっていたGKヨルゲンセンが、逆立ちして足で止める〝超美技〟をみせ場内をどよめかせた。（東　嘉伸）

得	【日本】		【デンマーク】	得
0	本田	GK	ヨルゲンセン・184	0
0	柴田	GK	ピイクニック・183	0
1	木野	FP	ハンセン・195	9
1	藤井	FP	ダル・ニールセン・194	8
2	中井	FP	ボック・190	5
5	佐藤	FP	フランドセン・186	2
1	菊池	FP	アンデルセン・188	0
0	村田	FP	パジイ・195	1
1	柳川	FP	ランセン・180	0
2	蒲生	FP	アンギャルト・188	1
0	花輪	FP	E・ペターセン・184	1
0	松原	FP	J・ペターセン・180	6
13（2）		PT	（4）	33

前半のリード守る

第4戦・カナダとの試合は9月30日午後9時45分からシャーブルック市・スポーツパレスで行われた。

審判＝F・ルボウ、O・クリステンセン（ともにカナダ）。観衆＝二千

日　本　24（11－10、13－5）15　カ　ナ　ダ

待望の勝利が無欲の心境から得ることができた。

2本のPTを落した立ちあがり更にはサイドシュートで先駆点をとられたが、浮き足だたずにディフェンスを固め、4分木野のサイドシュートに始まり、藤中、佐藤中井が中央よりディフェンスをかわして打ち込み13分木野の速攻で1－2、その後、穂積の活躍もあって日本はよく走り守ってもロングで勝負させる策が当たり27分には13－3と完全に、主導権を握った。

後半カナダの反撃が鋭どかったが、木野、佐藤が要所で決め、守っても本田、柴田がいい所でファインプレーを見せつき離した。

カナダはディフェンス力とシュート力に甘いが組織的で今後は要注意であるように思えた。（東　嘉伸）

得	【日本】		【カナダ】	得
0	柴田	GK	レフェブル・183	0
0	本田	GK	パウワー・186	0
5	佐藤	PF	シャグノン・	0
2	中井	PF	フェルダイス・179	5
3	藤中	PF	ジョンソン・188	2
4	穂積	PF	デゾルモウ・188	4
7	木野	PF	ヴィエン・186	1
0	蒲生	PF	セント・マルティン・183	0
0	村田	PF	デ・ルゾン・193	0
2	菊池	PF	ダウフィン・180	0
1	松原	PF	ブルネット・	0
0	飯田	PF	ブランクナウ・	3
24（1）		PT	（4）	15

アメリカ戦には自信

第5戦・アメリカとの試合は10月1日午後10時45分からモントリオール大学アイスアリーナで行われた。審判＝J・ロデイル、K・オルソン（ともにデンマーク）。観衆二千

日　本　24（13－4、11－10）14　アメリカ

スローオフからわずか38秒、中井のシュートがあざやかに決まり先行、4分には一度逆点されたが藤中、佐藤のフェインシュートが決まり13分には6－3とした。アメリカもエースアブラハムソンのロングで追いつくが、ディフェンスが甘く、日本は更に藤中、蒲生が打ち込み、一方的につき離すかに見えた。しかし終盤、飯田、菊池の連続二分間退場等で守りがみだれ11－10と内容の悪い催少差で終った。

後半アブラハムソンをマンツーマンでマークして、攻めのリズムをくずすと共に攻めてはラッキーボーイ穂積の速攻を始め、遅攻共にリズムよく12分～27分までアメリカをおさえて8ポイントをあげ一気に勝負をつけ4位を決めた。

日本以外の試合結果は次頁参照（東　嘉伸）

得	【日本】		【アメリカ】	得
0	本田	GK	シスカインド・178	0
0	柴田	GK	グランツ・	0
5	中井	FP	ブライ・187	0
8	藤中	FP	ワトキンス・183	2
4	佐藤	FP	ウインクラー・	0
2	木野	FP	デイカロギェロ・	2
2	蒲生	FP	スクレジンガー・183	2
0	菊池	FP	セルレペード・185	2
0	花輪	FP	フォスター・188	0
3	穂積	FP	アブラハムソン・191	5
0	柳川	FP	ベーカー・196	1
0	飯田	FP	ジョンソン・	0
24（2）		PT	（1）	14

このほかの試合結果

▽第1日（9月26日）
ポーランド 34（18－3、16－3）6 アメリカ

▽第2日（9月27日）
ソ連 27（15－4、12－4）8 アメリカ
デンマーク 27（14－9、13－7）16 カナダ

▽第3日（9月28日）
デンマーク 18（9－10、9－8）18 アメリカ
引き分け
（得点者）【デ】ダル・ニールセン8、ハンセン4、J・ペターセン3、フランドセン、スキンク、アンデルセン各1
【ア】セルレペード7、スクレジンガー、アブラハムソン各4、カレゲロ2、ベーカー1

▽第4日（9月29日）
ソ連 25（14－7、11－7）14 カナダ

▽第5日（9月30日）
ポーランド 35（18－5、17－8）13 カナダ
ソ連 21（12－8、9－8）16 ポーランド

得点王はクレンペル

大会の得点王は41ゴールをあげたポーランドの若きエース、エルジイ・クレムペル（22才、192cm、94K）。日本勢は佐藤が20ゴールで10位、藤中の19ゴールがこれについだ。

得	【ソ連】		【ポーランド】	得
0	イチェンコ	GK	スジムザク	0
0	トミン	GK	ロスミアレク	0
9	マキシモフ	FP	アントサク	0
0	リアザノフ	FP	ククタ	0
3	セルツナエフ	FP	クレムペル	6
0	クラフトソフ	FP	ブロゾゾウスキー	0
4	クリモフ	FP	シイエスラ	0
0	ラグティン	FP	ディボル	0
0	プロホティン	FP	メルセル	3
2	チェルニショフ	FP	ソコロフスキー	1
0	チクン	FP	グミイレク	1
3	キドヤエフ	FP	カルジンスキー	5
21	（5）	PT	（3）	16

▽第6日（10月1日）
ポーランド 29（16－14、13－10）24 デンマーク
（得点者）【ポ】クレムペル8、ブロゾゾウスキー7、メルセル4、ディボル3、カルジンスキー、ククタ各2、アントサクシィエスラ、グミイレク各1
【デ】ダル・ニールセン9、ハンセン7、J・ペターセン4、E・ペターセン2、ボック、パジイ各1

▽第7日（最終日・10月2日）
アメリカ 20（5－9、15－11）20 カナダ
引き分け
（得点者）【ア】セルレペード6、アブラハムソン、ディカロギェロ、スクレジンガー各3、ブライ、フォスター各2、ベーカー1
【カ】ヴィエン5、フェルダイス、デゾルモウ、デ・ルゾン各3、セント・マルティン、ブランクナウ各2、シャグノン、ランバート各1

ソ連 23（11－8、12－12）20 デンマーク
＝詳報未着

親善試合

B・C選抜に圧勝

遠征第1戦、ブリティッシュ・コロムビアオールスターズとの親善試合は9月23日、午後8時からバンクーバーの職業訓練所体育館（36m×19m）で行われた。

全日本 46（26－5、20－3）8 BC・オールスターズ

【日本】		得
GK	本田	0
	柴田	0
FP	木野	2
	村田	4
	藤中	7
	佐藤	5
	松原	6
	中井	4
	蒲生	4
	穂積	2
	菊池	5
	柳川	3
	（2）	46

【その他の出場者】▽FP花輪（得4）、飯田（得0）
（相手側メンバー不明）

○……バンクーバーにおけるハンドボールへの関心は未だ低く、BC・オールスターズが初めて行う外国ナショナルチームとの試合にもかかわらず、観客は百名足らず

その実力も中心選手のT・ペターソンをカナダナショナルの合宿で欠いているとはいえ、組織力、個人技ともおとり、日本は前半21分までに連続14ゴール、大勢を決めた。

その後も、日本の一方的な展開がつづいたが、大量点に気がゆるんだか、凡ミスが後半は多かった

この試合は、日本チームのアメリカ大陸における史上初の試合だった。

なお、46得点は男女を通じナショナルチームの対外国チーム最多得点記録である。（編集委注・これまでの記録は39年3月の全日本男子45－5ストコフ炭鉱、50年2月の全日本女子45－4台湾）

（東　嘉伸）

アメリカ×カナダ女子試合

▽第1戦（9月27日）
カナダ 13（8－5、5－6）11 アメリカ

▽第2戦（9月28日）
カナダ 15（7－4、8－3）7 アメリカ

大阪、名古屋で報告試合

プレ・オリンピックに出場した全日本男子チームは、その報告と強化を兼ねて10月なかば、大阪、愛知協会招待による試合を行い、トップチームを中心とした地元チームに順当勝ちした。

◇招待試合第1戦（10月16日・大阪東淀川体育館）
全日本 18（8－7、10－7）14 湧永薬品・大阪イーグルス連合

◇同第2戦（10月17日・愛知県体育館）
全日本 20（12－7、8－2）9 大同製鋼・本田技研・鈴鹿連合

ミカドハンドボール

TRADE MARK

日本ハンドボール協会公認球

ミカド商会

東京・豊島・巣鴨・7丁目1696
TEL (941) 2635・6592

オリンピックの技術が生きている。

東京、メキシコ、ミュンヘンと連続3回オリンピック試合球に選ばれたミカサの超高級ナイロン糸巻きの技術の粋がこのボールにもすべてに生かされています。
《科学のボール・完全防水……クラリーノ製(準検定)もあります。》
日本ハンドボール協会検定球

明星ゴム工業株式会社
広島・東京・大阪・福岡・名古屋・札幌

ハンドボール

■日本ハンドボール協会検定球
■国際ハンドボール連盟I・H・F公認球

モルテンゴム工業株式会社

日本ハンドボール協会公認球

一番広く使はれて居る!

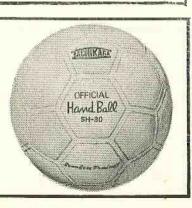
セプター号

サービス部
新宿区新宿2丁目電停前
TEL (341)2979・1016

望月運動用品KK
東京都墨田区横川橋4丁目6
TEL 本所(622)0746

日本ハンドボール協会公認球

シームレスハンドボール

●パスワークのさえ
●オーソドックスなデザイン
●ハンドリングのよさ

TACHIKARA タチカラ株式会社

GK久保徳子　GK渡辺久子　GK和田祥子　☆……選手……☆　鈴木義男コーチ　井　薫監督　☆……役員……☆

世界女子選手権 16代表の球歴

井　薫　・監督、・立石電機監督、・熊本協会常任理事、中大出、37才。昭46第4回世界女子選手権コーチ、昭48第5回世界女子選手権監督。昭48から女子ナショナルチーム監督をつとめている。

鈴木　義男　・コーチ、・田村紡監督、・三重協会理事、・四日市商出、40才。昭48第5回世界女子選手権コーチ、昭49訪韓全日本実業団選抜軍監督。昭48から女子ナショナルチームコーチングスタッフ。

和田　祥子　・GK、・立石電気、・神奈川二俣川高出、・23才、167cm、66K。昭48第5回世界女子選手権代表公式国際試合出場15。前回の初渡欧中に力をつけ欧州勢に自信を持っているのは心強い

渡辺　久子　・GK、・日本ビクター、・茨城水海道二高出、・22才、161cm、63K　昭50世界女子選手権アジア予選代表、公式国際試合出場6。全日本入り後1年足らずでの栄光。堅実なプレーが買われた。

久保　徳子　・GK、・三重赤羽中出、22才、161cm、57K。昭50世界女子選手権アジア予選代表、公式国際試合出場1。地味な努力が実って全日本入りいっそう進境を示した。絶好調。

島田　夏枝　・FP、・立石電機、・熊本氷川中出、24才、163cm、53K。昭46第4回及び昭48第5回世界女子選手権代表、公式国際試合出場24（得点48）全日本のリーダー。メーカー、アタッカーの両面をこなせる。

古佐原ひろ子　・FP、・東京重機、・福島小高農高出、24才、153cm、49K。昭46第4回及び昭48第5回世界女子選手権代表、公式国際試合出場24（得点81）国内NO1の選手。小柄だが鋭いプレーは海外でも評価が高い。

蔵田　照美　・FP、・立石電機、・熊本菊池農高出、24才、163cm、55K。昭48第5回世界選手権代表、公式国際試合出場16（得点36＝16試合連続）積極性が加わり一段と豪快味を増した。攻撃陣のカギを握る。

山下恵美子　・FP、・立石電機、・熊本天草農高出、22才、160cm、57K。昭48第5回世界選手権代表、公式国際試合16（得点12）冷静な判断力をもち、攻防両面で欠かせぬ人材。玄人好みだ。

松下　仁美　・FP、・田村紡・香川三本松高、21才、163cm、58K。昭50世界選手権アジア予選代表公式国際試合出場6（得点6）近い将来、エースの座が期待されるアタッカー。守りも巧い。

菊地　春美　・FP、・東京重機、・秋田和洋女高出、22才、163cm、64K。昭50世界選手権アジア予選代表公式国際試合出場6（得点16）スケールの大きい選手。春に痛めたヒザも治り〝巨砲〟復活だ。

加藤美起子　・FP、・日本ビクター、・宮城涌谷高出、20才、164cm、62K。昭50世界選手権アジア予選代表公式国際試合出場6（得点10）速攻を得意とし、若さにあふれ

選手の平均身長162・9cm
同体重60・6kg

ＦＰ島田　夏枝

ＦＰ古佐原ひろ子

ＦＰ蔵田　照美

ＦＰ山下恵美子

ＦＰ松下　仁美

たプレーは目立つものがある。

額賀美枝子・FP、・日本ビクター、・茨城鉾田二高出、23才、162cm、61K。
昭50世界選手権アジア予選代表
公式国際試合出場6（得点25）
オールラウンドの攻撃力は光り最近いちだんと確実味を増した。

穂積美保子・FP、・日本ビクター、・宮城涌谷高出、20才、168cm、65K。
昭50世界選手権アジア予選代表
公式国際試合出場3（得点2）
今季もっとも成長した選手といわれる新鋭。

紀野奈々美・FP、・立石電機、・大分東高出
19才、166cm、64K。
昭50世界選手権アジア予選代表
公式国際試合出場3（得点3）
大成を期待されるホープ。初渡欧で飛躍のきっかけが欲しい。

河田　栄子・FP、・田村紡・広島山陽女高出
・20才、167cm、69K。
昭50世界選手権アジア予選代表
公式国際試合出場4（得点2）
高校時代から有望視されていたアタッカー。

チェコの陣容もととのう

日本協会が非公式に入手した情報によると、世界選手権で日本と予選リーグ同組のチェコ（前回6位）の代表メンバーがこのほど次のように決まった。○印は前回の代表。なお、ルーマニア、ノルウェーの主戦予想メンバーは本誌131号既報。

（チェコ）○バルタコーバ、ボレドビコーバ、○ダティンスカ、コリタローワ、○ホルティノーバ、○スピルコーワ、ホラローワ、○マティソバ、○バスソバ、○マカラコーワ、○スピコーバ、コザニョーワ、クルトコーバ、○ミカルシコーバ、ポラシコーバ、オパシータ

日本戦の審判員　世界選手権事務当局は、このほど大会のレフェリーを発表したが、予選リーグにおける日本戦担当は次のとおりである。

対チェコ戦（2日午後8時15分）＝リカルト、イシェル（スイス）
対ルーマニア戦（3日午後7時45分）＝スベンソン、クリステンセン（デンマーク）
対ノルウェー（5日午後6時15分）＝スカインデリス、チェカルチスクヴリ（ソ連）

東ドイツ交流も決まる

日本協会は、第2回東ドイツ交流として、世界選手権出場の全日本女子チームを、本大会前、東ドイツへ送りこむよう、関係筋と折しょうしていたが、このほど東ドイツから、11月13日〜29日の17日間受け入れるとの連絡があり、正式決定した。

東ドイツからの連絡によると、22、23日東ドイツ・ナショナルとの公式対抗戦（2試合）のほか、トップチーム5クラブと5〜7試合が予定されている。

東ドイツ・ナショナルは、世界選手権で、ユーゴ、ルーマニア、ソ連らと並び有力な優勝候補にあげられている。

また、対戦が明きらかとされたクラブも、昨年東ドイツリーグで25戦21勝3分1敗という圧倒的な強味をみせて優勝したSC・ライプチッヒをはじめ、同2位のエムポール・ロストック、同3位のTSC・ベルリン、同4位のSC・マグデバーグ、それにハーレン・ハーレら、国際的にも名の高い有力チームが揃えられた。東ドイツナショナルの選手は、ほとんどこれらのクラブからピックアップされており、手ごたえ充分の相手といえる。このほか、DHfK・ライプチヒ、EBT・ベルリンらとの対戦も予想される。

11月12日に出発　日本協会は、東ドイツ遠征が決まったことで、全日本女子選手団の渡欧日程を次のように決めた。

▽出発、11月12日午前11時40分、ソビエト航空578便
▽帰国、12月15日午前10時40分、ソビエト航空581便

ＦＰ菊地　春美

ＦＰ加藤美紀子

ＦＰ額賀美恵子

ＦＰ穂積美保子

ＦＰ河田　栄子

ＦＰ紀野奈々美

HONDA は無公害時代のパイオニア!!

《世界のホンダ》を支えるホンダイズムとは
フェアプレイを土台にした“先駆者の精神„
です。先人の追従でなく、あくまでも自らの手で
よりよい製品をより早く世に出すこと………それは
究極的にはスポーツ精神と同じ“自分との闘い„です。

本田技研工業㈱鈴鹿製作所
三重県鈴鹿市平田町1907 ☎〈0593〉78-1212 〒513

厚く、深い底刻み、
フット・ワーク優先の
合理シューズ

●力のロス、横スベリを解消した合理設計で定評高い斜線模様の特殊モールド底。(パテント出願中)
●厚く、彫りの深い底、中底はユニークな弾性を誇る二重スポンジ・クッション。
●表布と裏布を離した袋状アッパーで、快適な足沿い、軽快な履き心地。
●ブルー、金茶のカラー・フルなデザイン。
●要部に革補強。

ハンドベアー
デラックス〈HX〉●サイズ=22.5~29●ブルー・金茶●¥2,800
●全国有名スポーツ品店、百貨店でお求め下さい。

神戸 **ベアー株式会社** 東京

本田洋選手
公式国際試合出場50回に（GKで初）

全日本男子チーム守りの要・GK本田洋選手（大阪イーグルス）がプレオリンピックの最終試合、対アメリカ戦（10月1日）で、公式国際試合50回出場をマークした。

この記録は、日本では木野実選手（湧永薬品）につづく史上2人目のもの。GKでは初の偉業である。

本田選手は、大阪・堺工高時代からGKとして活躍、いちぢ実業団の本田技研鈴鹿(三重)に籍をおいたあと、42年日体大に入学、めきめきと頭角をあらわし、43年の学生東西対抗出場でスターダムにのしあがった。

44年2月ナショナル入り、その年の6月、欧州遠征で国際プレイヤーとしてデビュー。以後7年間日本のゴールを守りつづけている。

誠家な人柄そのままに、キーピングは、どちらかといえば地味で味方のピンチにも動じない冷静な球捌きが、チームメートの絶大な信頼を得ている。

全日本でメート（相棒）となったGKは別表のとおり6名に及びいかに節制をつづけイキの長い選手かが判ろう。

現在でも、第一人者としての定評は固く、モントリオールを目指す全日本にとって欠かせぬ人材だ。国際的な評価も高い。

昭和22年3月生まれ、179㎝、76K、大阪・堺工高教諭、既婚。

なお、日本協会は9月16日大阪東淀川体育館で行われた全日本—湧永薬品・大阪イーグルス連合戦の開会式で、記念トロフィーを贈り、本田選手の健斗をたたえた。

本田洋選手

本田洋選手50試合のあと

No.	年月日	相手	メート
①	昭44. 6.21	ハンガリー	(福本)
②	6.27	ソ連	(下里)
③	6.29	ルーマニア	(〃)
④	7. 9	西ドイツ	(福本)
⑤	昭45. 2.26※	チエコ	(下里)
⑥	3.28※	ユーゴ	(〃)
⑦	3. 1※	アメリカ	(〃)
⑧	3. 3※	アイスランド	(〃)
⑨	3. 4※	フランス	(〃)
⑩	3. 6※	ソ連	(〃)
⑪	3.10	オランダ	(〃)
⑫	3.12	オランダ	(〃)
⑬	3.14	イタリア	(〃)
⑭	3.16	イスラエル	(〃)
⑮	3.18	イスラエル	(〃)
⑯	昭46. 9. 4	スウェーデン	(大村)
⑰	9. 5	スウェーデン	(〃)
⑱	9.11	スウェーデン	(下里)
⑲	9.18	スウェーデン	(〃)
⑳	11.14	イスラエル	(大村)
㉑	11.20	韓国	(〃)
㉒	11.23	イスラエル	(下里)
㉓	11.28	韓国	(大村)
㉔	昭47. 8.26	アイスランド	(下里)
㉕	8.30◎	ユーゴ	(〃)
㉖	9. 1◎	ハンガリー	(〃)
㉗	9. 3◎	アメリカ	(〃)
㉘	9. 7◎	ノルウエー	(〃)
㉙	9. 9◎	アイスランド	(〃)
㉚	昭48. 9. 1	ユーゴ	(〃)
㉛	9. 9	ユーゴ	(斉藤)
㉜	昭49. 2.14	イスラエル	(柳川)
㉝	2.17	イスラエル	(〃)
㉞	2.22	ユーゴ	(〃)
㉟	2.24	ユーゴ	(〃)
㊱	3.28※	東ドイツ	(〃)
㊲	3. 1※	ソ連	(〃)
㊳	3. 3※	アメリカ	(〃)
㊴	3. 5※	ブルガリア	(〃)
㊵	3. 7※	西ドイツ	(〃)
㊶	3. 9※	スウェーデン	(〃)
㊷	8.31	東ドイツ	(斉藤)
㊸	9. 1	東ドイツ	(〃)
㊹	9. 7	東ドイツ	(〃)
㊺	9. 8	東ドイツ	(〃)
㊻	昭50. 9.26	ソ連	(柴田)
㊼	9.28	ポーランド	(〃)
㊽	9.29	デンマーク	(〃)
㊾	9.30	カナダ	(〃)
㊿	10. 1	アメリカ	(〃)

※印は世界選手権　◎印はオリンピック

（ ）内はメート

佐藤（本田技研鈴鹿）、「世界選抜」に

佐藤要二選手（FP、本田技研鈴鹿）が、"世界選抜"の一員にリストアップされた——西ドイツの「週刊ハンドボール誌」10月15日号によれば、IHF（国際ハンドボール連盟）は、11月2日に予定されている西ドイツ・ウェストハレンホール創立50周年記念行事IHF選抜(世界オールスターズ)—西ドイツ戦のメンバーとして、このほど12名を決め、FPの一員に、日本から初めて、佐藤選手を指名した。

IHFが、世界選抜を編成するのは、史上これが3度目だがヨーロッパ以外の地域の選手が、栄光のチームに加るのは初めてのこと

佐藤選手は、昨春の第7回世界選手権(東ドイツ)で、絶好調の攻撃をみせ、ビルトラン（ルーマニア）と、最後まで得点王を争い、一躍、ヨーロッパの専門家たちの間にその名と攻撃力の評判が高まった。

◇

佐藤選手の世界選抜参加の報は日本ハンドボール界に大きな喜びを与えたが、本誌〆切り（10月23日）までに、IHFから、公式連絡がなく、日本協会なども、同選手の渡欧について、具体的な動きを示していない。

また、佐藤選手が、地元で開かれる国体の三重選手団旗手に選ばれていることもあって、10月31日閉幕の三重国体後に、出発するのでは、試合に間にあわないため、あるいは"辞退"ということも考えられる。

◇IHF世界オールスターズ▽GKペヌ(ルーマニア)、アルスラナジッチ(ユーゴ)、カーター(西ドイツ)、▽FFガツ、リク、キシド(いずれもルーマニア)、プロコヤク、ポポビッチ、ホルバト(いずれもユーゴ)、シュミット、フェルドホフ(ともに西ドイツ)、佐藤(日本)＝この項西ドイツ「週刊ハンドボール」誌から

◇佐藤要二選手・26才、清水商—中大—本田技研鈴鹿、47年3月全日本入り、179㎝、78㎏、右腕、昭49第8回世界選手権、昭50プレオリンピック代表、公式国際試合出場21回（通算88得点）

IHF審判講習会 報告2

〜E・ホルレ氏の講演〜

安藤純光
岡前義春

前回のブルガスでの研修会においても問題点の一つは、ラフプレイを如何に処置するかであった。このいわゆるラフプレイといわれるプレイは、ハンドボールの本来の姿を失なうものであるばかりでなく、健全な発達を粗害するものである。

この問題については、国内の研修会・講習会においてもその都度論議の対象としてとりあげられている。

今回の研修会においてエミール・ホルレIHF審判と競技規則委員会の委員長は以下のような講演をしております。

◇……◇……◇

現代の室内ハンドボールの規定の必然的解釈と適用

我々人間社会内部の生活は、規定がなければ不可能である。

人間社会の中に生きる人類は、秩序と安全を保証してくれる。規則や、規制や、規定があって始めて秩序と安全のうちに生活することができるのである。

〝だから我々は規定に従って生活しているのである〟

もし我々がこれらの規定や規則をきちんと守らないということがあれば、我々の行為は矯正されなければならないし、我々の犯した違反に従って、我々は「罰を課される」のである。我々は人生をゲームにたとえることができる。すなわち競技者が正しく、スポーツマン精神に基いて競技できるようにしてくれる規定や規則がなければならないということである。それが我々がゲームの規定を必要とする理由である。スポーツ特有のルールを持って居り、そのルールはそのスポーツのもつ性格や概念から展開されるべきである。ルールはゲームの進行について述べ、ゲームの進行を決定する。またルールは〝何が禁止され、何が許されるか〟を明りょうに示している

レフェリーはゲームのルールについて、しっかりした知識を持ちスポーツマン精神に基いてそれを適用する義務がある。またレフェリーはルールが守られるということについて責任を負っているのである。

レフェリーがゲームを正しく進めさせたいと思うならば、先ず第一にゲームのルールを完全に知らなければならない。なおその上にルールを理解することができなければならない。すなわちハンドボールの性格を知り、何がそのルールや、ゲームの性格や、自分が審判しなければならぬ状況や競技者に合っているかを感じとることができなければならない。

ルールを文章化したものとゲームの性格は、互いに調和していなければならない。非常にきびしく適用され文章と絶対的に一致していなければならないルールがあるすなわち、競技場内の各スローのとりかた、ゲームの継続期間、競技者の数など、簡潔にいえば全ての技術的要素である。しかしながら、特別の注意をもって適用しなければならぬルール、ゲームの性格からみて一番重要なルールがある。それは第6ルールの相手への接近特に第6ルールの8の（相手を危険に陥らせること）明らかな得点のチャンスを損なうような自分の側のコート、また全体に於いて重大な違反（第6ルールの10）もしゲームが中断された場合、攻撃チームに不利になるような防御側チームの違反（第13の6、第14の8）：非紳士的プレイがなされる場合や違反が故意にくりかえされる場合（第17の13）：非紳士的行為や重大な違反（第17の14）：退場（第17の16）：追放（第17の18）：失格（第17の20）：などである。

レフェリーはゲームのルールとゲームの中で行なわれる行為がそれぞれ〝独立している〟ということを知っていなければならない。もしレフェリーがきびしい結論を出したうえでルールを適用しないならば、彼はもはやレフェリーである能力がないのであり、審判部からはずされ、国内及び国際レフェリーの名簿から姿を消さなければならないのである。そのようなレフェリーは我々のゲームをだめにしてしまい、充分知識のあるトレーナーや頭のよい競技者達の努力を損ってしまうのである。

観客はすぐに立派なレフェリーを見分けるものである。立派なレフェリーは絶え間なく変化していくゲームの状況に順応することが出来る。レフェリーと競技者との間の接触は人間的でしかも気心が合っていなければならない。（たとえルールを完全に知っていたとしても）、ルールを知っているだけで、同時に本能的にそのルールを適用することができないレフェリーは、無味乾燥で個性に欠けている。傑出したレフェリーは芸術家なのである。彼はゲームを創造し、何をするべきなのかを感じとり、自分の努力と、チームを動かしているトレーナーの努力とが調和して効果をあげるようにすることができなければならない。

才能ある競技者や、よく訓練された観察者は、レフェリーがゲームの進行について理解し、競技者とともに身を処し、ルールを正しく、同時にそれぞれの状況に合わせて適用しているかどうか。簡単に言えば、レフェリーがゲームを正しく導いているのか、それともただ、表面的で不適切なやり方でペナルティーを課しているだけなのかということを直ちに見分けるものである。

レフェリーの顕著な特徴の中の一つは、思いやりのある理解力である。レフェリーは理解力が鋭くなければならない、もしそうでなければゲームの進行についてゆけないだろう。レフェリーは身体的に完全に適合していて、いかなる瞬間も、常に同じように観察し反応できる用意をしてゲームの進行について行かなければならない。レフェリーはまた精神的にも完全に適合していなければならない。なぜならば思考と判断の迅速さは

絶体に必要なのだからである。レフェリーは身体と精神の両面で完全に適合していなければならないのである。

現代の室内ハンドボールの傾向は今まで、幾年もの間分析されてきた。その結果言えることは、ゲームの進行がだんだん速くなっている。だからレフェリーはだんだん敏速に反応することができるようになって行かなければならないのである。しかし反応が遅れたり早やすぎたりすることも悪い。レフェリーは、ゲームをあまりにも早やく中断することによって、攻撃チームを不利にしていることに気づかないだろう、そのようなゲームの中断は、ゲームの進行を妨げるかもしれず、またゲームの理想的な性格を変えてしまうものである。勿論あまり遅くホイッスルを吹くことも、また害毒である。ゲームが非常に迅速に進んでいる場合は2番目の違反が犯されたときには最初の違反はたぶんもう忘れられているものである。ホイッスルを吹くのが早やすぎることと遅すぎることはレフェリーの犯す誤ちのうちの最悪の二つなのである。違反には直ちに罰則が課されなければならない。但し、例外は（第13の6）と（第14の8）の罰則の遅れた場合のルールに関する（原注）の中に記してある。もしレフェリーが違反が犯されたことを認めた場合は、直ちに反応しなければならないし、また違反の価値を認識していなければならない。レフェリーはゲームの規定とその場の状況に合わせて、技術上と戦術上の不利益及び利益のそれぞれにルールを適用しなければならない。（第13の6、第14の8）。

常に二つの解釈が可能である。もしゲームの中断によって反則を受けたチームが不利にならない場合は、レフェリーは直ちにホイッスルを吹かなければならない。しかしもしレフェリーがその中断によって反則を受けたチームが不利になるだろうという考えを持つ場合は、ホイッスルを吹いてはならない。しかし、レフェリーはアドバンテージを認めることはできるのである。もし反則を受けたチームが認められたアドバンテージによって得をするのでなければレフェリーは、二回目のアドバンテージを与えてはならない。

レフェリーは、始めから終りまで同じ尺度に合わせて、ゲームのルールを適用すべきである。言いかえれば、同じ違反に対しては同じペナルティーを課すべきであるということである。

レフェリーは、ルールが“expressis verbis”を許している場合のみ差別をすることを許されている。しかしレフェリーは注意深くなくてはならない。もしペナルティーが充分にきびしくなかったら、ゲームはたちまち野蛮になり、その教育上及び宣伝上の価値を失なってしまう。懲罰の程度はゲームの始った瞬間からきびしくて、相手に対する野蛮な接近を許さなければレフェリーがルールを適用することができるということと、ゲームの性格を完全に認識しているということを示している。もしレフェリーがルールやゲームの性格を知っていれば、自分の陣地でプレイしているチームと、相手側陣地でプレイしているチームいいかえれば、攻撃側の競技者と防御側の競技者に対する異った懲罰は起らないであろう。

私は2年前にブルガリアで発言したことに今だに自信を持っている。すなわち攻撃側の競技者も、防御側の競技者と絶対に同じとりかたで審判されることである。（相手への接近）、両チームの競技者とも同程度の罰則に従って罰される。もし攻撃側の競技者が違反を犯せば、防御側の競技者もまた不正に自分を守らなければならなくなるであろう。その結果、いつでも続く、反則の連続、優雅な攻撃と防御行為の代りにはげしい闘争、おびただしいゲームの中断、否定的な宣伝、観客間の暴動、観客の減少などが限りなく起ってくる恐れがある。

“ゲームの規定は全ての競技者にとって同じである”

レフェリーはこの精神でゲームを進めなければならぬ、それで初めて正しく審判するということになるだろう。もし真実と正義が勝利を占めれば、信頼の雰囲気ができてくるであろう。競技者や観客は、レフェリーを信頼できるということを感じる必要がある。ゲームはこのような信頼の雰囲気の中で行なわれなければならない。競技者がレフェリーに対して信頼感を持っていれば、またレフェリーの言うことに従い、なぜレフェリーがきびしくするのか理解してくれもするであろう。

次にハンドボールの最も重要なルールのいくつかについ話したいと思う。すでにそれらのルールについては、私の講演の初めに述べてある。すなわち、第6の8、第6の10、第13の6、第14の8、第17の13、第17の14、第17の16、第17の18、第17の20、の各ルールである。ルールを適用する場合の結果ということを私が話すときは、どういう意味でいうのかを示してみたいと思う。結果とは、いかなる行為も結果を持つという意味の結果である。私は競技者が自分の行為の結果を知り、レフェリーは常に同じように振る舞うであろうと確信することができるように、ルールは絶えず、変らず、同じとりかたで適用されなければならないのだと言いたいのである。

さて、これからのルールについて詳しく話させて下さい。

第6のルール：

ＩＨＦハンドブック一九七五年版「相手への接近」第6のルール1～11までこのうち第6の8と、第6の10、だけについて話します左記は第6の8を記したものである。

次の各行為は禁止されている。

① （片手または両手で）相手をつかむこと。

② （片腕または両腕で）相手をつかむこと。

③ （片手または両手で）相手を妨害すること。

④ （片手または両手または両方のこぶしで）相手をたたくこと

⑤ （片手または両手、片方または両方のこぶし、胴体、腰、ひざ、肘大腿で）相手を押すこと

⑨ 走っていて、相手にぶつかること。（もし両方の競技者が互いに走っていて相手にぶつかった場合は、より強い勢で相手にぶつかった競技者がペナルティーを課せられる。

⑦ 相手にとびかかること。（（）内は⑨の場合と同じような規定がある）。

⑧ 相手をつまずかせること。（足を差しだすことは禁じられている）。

⑨ 相手の前に自分の体を投げ出

すこと。(自分の体を相手の前にさきに投げ出した競技者がペナルティーを課される)。

⑩ 他のいかなる手段によっても相手を危険にさらすこと。

"プッシングの定義を下したいと思う"

競技者が相手を前から、または後から、そして片方または両方の手、こぶし、肘、肩や頭、胴体、腰や片方の上腿、下腿、ひざや両方のひざや足で横から押した場合は、相手を押すという行為であってペナルティーを課される。

もし競技者が相手を無理にゴールエリアに押し入れた場合。例をあげればこの種の相手に対する力の加え方もまた、プッシングと考えられる。しかしながら、もし相手がボールを持っていない場合でも第のに述べられていることは許される。レフェリーは、ブロッキングとプッシングと相手の進行方向を妨害(禁止されているする)ことの違いをはっきりとさせなければならない。"ボデーチェッキング"は、ブロッキングを退化させてしまうことになる。

第6の10は重大な違反すなわち野蛮な競技の仕方に我々の注意をひきつけてくれる。第6ルール4～9のまでの重大な違反が、反則者の側のコートで犯された場合や得点の明白なチャンスがそれによってそこなわれるような、第6の4、5、7、8、9の重大な違反がコートのどの部分でも犯された場合は、ペナルティースローがあたえられる。(第14の1のa、b)また(第17の13、第16、18)参照のこと。

"Loe gustibus nat est disputandm"

ある違反が、ただの違反だったのかそれとも重大な違反であったのか分けることが困難である場合がよくあることを我々は知っている。多くのレフェリーは決断を下そうとはしない。自分が確信がなく、はっきりした判断の基準をもたないか、それよりもっと悪いかのどちらかである。そのようなレフェリーは勇気がないので、きびしいペナルティーを課することを恐れてやめてしまうのである。

なぜ重大な違反が犯されるのだろうか。どんな状況が競技者に重大な違反を犯させるのだろうか。レフェリーはこういう状況を知っていなければならない。レフェリーは、いつ、どんな状況のもとに競技者が野蛮な競技をやり始めたかを知っていなければならない。

I、多分競技者自身が"その理由"である場合。

(1) 競技者が充分に訓練されていないとき。

(a) 動作がおそい。

(b) 無器用である。

(c) 技術的に未熟である。

だから優れた技能の代りに野蛮さと残酷さですませている場合。

(2) 競技者のスポーツマンシップに関する教育が行なわれていない場合。

(a) 基本的な教育を受けていない。

(b) 相手側に対する尊敬の念がない。

(c) ゲームのルールについての知識がない。

(d) 自分自身を規律に合わせようとする意志がない。

(e) レフェリーの判定を受け入れない。

簡潔に言えば、精神の本質とスポーツ道徳の意識がまだ活溌でない競技者の場合。

II、コーチとトレーナーは、(トレーニングとゲームの間に)競技者に悪影響をあたえることがある彼達は競技者に間違った競技のやりかたを教え、どんなことをしてでも勝つように指導している場合

III、後援者の盲目的で狂言的な振舞が相手側の士気をくじき、自分達のチームを狂言的にさせている場合。

IV、レフェリーが、身体的及び精神的状態と風格が充分でないために、ゲームのルールに服従することを強く主張することが出来ない場合。

私は、自分が"重大な違反"とか粗暴な、または残酷であるプレイだと考えているものを皆さんに説明しようとは思っていない。もし競技者が故意に相手を傷つけたり、相手の健康を危うくするような行為をしたりすれば、その競技者は粗暴とか、残酷なプレイをしており重大な違反を犯していると見なされるのである。はっきりとした原則がなくてはならない。‥もしレフェリーが相手の健康が危険にさらされているとか、競技者が怪我をするかも知れないとみた場合は、とにかくこのような行為を"重大な違反"と考えなければならない。

我々は、ハンドボールを"我々の健康のために"するのである。競技者の健康に反する全ての行為はスポーツの精神に反し、阻止されなければならないのである。競技者の健康を危険にさらすような行為は、スポーツと何の関係もないのであり、レフェリーによってきびしく罰則を適用されるべきである。

第6の10をもう一度見てみよう‥明白な得点のチャンスを損なうような、コートの全体に於いて犯される"重大な違反"のみでなくいかなる違反もペナルティースローを課すべきである。反則者のコートの中だけで犯される"重大な違反"の場合は、ペナルティースローがあたえられる。コートのいかなる部分で犯される違反でも、明白な得点のチャンスが損なわれる場合は、ペナルティースローがあたえられる。

"第13の6、ルールの本文と注意書を研究してみよう"

〔第13の6〕

ゲームの中断が攻撃チームにとって不利になるかも知れない場合は、レフェリーは、フリースローをあたえない。もし防御チームの競技者によって違反が犯されたために攻撃チームの競技者が、ボールのコントロールを失なった場合は、レフェリーは少なくともフリースローをあたえる。もし防御チームの競技者によって違反が犯されたにもかかわらず、攻撃チームの競技者がボールを完全にコントロールしている場合は、レフェリーは、フリースローをあたえない

〔注意〕

レフェリーは、もし防御チームの競技者が、退場、または追放のペナルティーを課さなければならないような違反を犯した場合。

(a) 得点された。

(b) 反則したチームがボールを持つようになった。

(c) その他のいかなる理由でも競技が中断された。

その後で違反した競技者に、ペナルティーを課すつもりであることを示すために腕を数回あげる。

〔"競技は次のようにして再開

始する。」

(b)(a) スローイン。

反則を受けたチームがボールを失なったときに、ボールがあった場所から反則を受けたチームのフリースロー。

(c) 各状況に相応するスロー。

(第14の8) 第13の6と同じ。

<結論>

1 防御チームが違反を犯したにもかかわらず、攻撃チームが有利な立場にあるときは、レフェリーは競技をすぐに中断しないで、また反則したチームがボールを持つようになるまで攻撃を続けさせる。

2 その瞬間にのみ、ペナルティー（フリースロー。またはペナルティースロー）が課されるのである。そのペナルティーは、繰りかえし腕をあげることによって示したものである。

3 第13の6と第14の8は、注意深く適用されなければならないアドバンテージが考慮されなければならないし、反則を受けたチームは、このアドバンテージを認められなければならない。競技はよどみなく続けられてかまわないのであり、もし得点がされない場合は、反則を犯したチームがボールを持つようになったら、すぐに、またその他のいかなる理由によっても競技が中断された場合に、ペナルティーが課される。

第13の6と第14の8は、最も重要である。なぜならば、その中には、反則を犯したチームが、アドバンテージを得ることはなくて、反則を受けたチームがアドバンテージを認められるということが含まれているからである。∴ペナルティーは課される。……でしかし遅らせることができる。

これらのルールは、立派なレフェリーによってのみ、うまく適用されるのである。

〝ゲームのルールを適用した結果について、もっと重要なルールは〟

第17の13の非紳士的なプレイのやりかたに関すること。

第17の14の非紳士的な行為に関すること。

第17の16の退場に関すること。

第17の18の追放に関すること。

第17の20の失格に関すること。

などのルールである。これらのルールを詳しく見てみよう。

（第17の13）

非紳士的なプレイが行なわれる場合や、違反が故意に繰りかえされる場合は、レフェリーは、フリースロー、ペナルティースローをそれぞれあたえるだけでなく、また反則を犯した競技者に対して警告もおこなう。

もし非紳士的なプレイや違反が繰りかえされるならば、退場（第17の16）、追放（第17の18）される。重大な違反の場合は前もって警告を受けてないで単数または複数の競技者を退場させたり、追放してもよい。

（注意）

レフェリーが、競技者、または役員に警告をあたえたい場合は、〝警告〟という言葉を使わなければならない。そしてまた、〝こぶし〟をにぎって警告がなされたことが、競技者や観客にはっきりと見えるように空中に片腕を上げなければならない。

（結論）

故意に繰りかえされる違反と非紳士的なプレイは、次のようにペナルティーを課される。

1 警告とフリースロー、およびペナリティースロー。

2 違反や非紳士的なプレイのしかたが、繰りかえされる場合は退場、または、追放。

3 重大な違反の場合は、前もって警告することなしに退場または追放。

第17の13で、レフェリーの弱点は、繰りかえされる違反や故意の反則を、幾度も繰りかえして判定することである。

（要望）

1 繰りかえされる違反、非紳士的な競技のやり方、故意の反則は、退場、または、追放のペナルティーを課される、違反がペナルティースローに相当する場合は、ペナルティースローがあたえられる。

2 警告をするだけでは充分でない。レフェリーは、第17の13を適用する。そして、これを適用することを恐れてはならない。

3 レフェリーは、このルールを適用する勇気を持たなければならない。レフェリーはもはや、風格と勇気の欠如を批判されるべきではない。

4 非紳士的なプレイや、故意に繰りかえされる違反に、もし粗暴で残酷なプレイの要素が加われば、唯一の正当なペナルティーは、前もって警告することなしに適用される、退場、または追放である。

〝非紳士的行為についてはどうであろうか〟

（第17の14）

競技場の内または外に於ける非紳士的な行為がある場合は、レフェリーは反則を犯した競技者に警告をあたえる。（第17の13）。もし非紳士的な行為が繰りかえされる場合は、競技場内の競技者は退場させられるか、（第17の13）、追放される、（第17の18）。競技場外の競技者は、失格させられる、（第17の20）。また、ベンチにいる役員が、レフェリーから警告を受けたり、失格させられることもあり得る（第17の20）。

重大な違反をした場合、単数または複数の競技者が、レフェリーによって前もって警告を受けないで退場させられること。（第17の16）、追放されること、（第17の18）。または、失格にされること、（第17の20）があり得る。もし競技が非紳士的な行為によって中断されたならば、その競技は違反を受けたチームによって競技が中断されたときにボールがあった場所から、フリースローによって、レフェリーの笛で再開始される。

競技が中断されている間に非紳士的行為が行なわれた場合は、競技は最初の中断の原因に対応するスローによって再開始される。

（結論）

1 非紳士的な行為は常に警告の処分を受ける。反則者は競技場の内にも外にもいることがある

2 非紳士的な行為が繰りかえされる場合は、競技場内のときは退場させられるか、追放される競技場外のときは、失格にされる。（競技者または役員）。重大な違反をした場合は、反則者は警告なしに退場、追放、失格にされる。

（要望）

1 レフェリーは、非常にきびしく当然のこととして第17の14を適用する。

2 繰りかえし行なわれる非紳士

的行為は、（もし重大な違反）即座に、退場、または追放によって罰される。

3　重大な違反と考えられなければならない、非紳士的な競技のやり方は、警告なしで、退場か追放、また失格の罰則を課される。

″退場ということについて考えてみよう″

〔第17の16〕

競技者を2分間または5分間退場させてもよい。退場させられた競技者は、退場時間中には、交替競技者にはなれない。万一ある競技者が同じ、または、類似の違反を犯して、2回目に退場させられるときは、5分間の退場である。

その他の全ての場合に退場は、競技者が犯した違反の種類によって、2分間または5分間とする。万一競技者が3回目に退場させられるときは、失格である。（第17の20）。追放の時間は、5分間である。反則を犯したチームは、追放時間中は6名の競技者で競技を行なう。交替競技者が反則を犯しても失格にはしない。

前半終了のときまでに、追放の時間が終っていない場合は、その残りの時間は、後半の始めにとらなくてはならない。競技の終了までに追放の時間が終らず、競技延長が行なわれる場合は、（第4の9）、退場の時間の残りは、延長時間の始めにとらなくてはならない。退場させられた競技者は、交替競技者の席にとどまるものとする。（失格は第17の20参照）。

退場の処置は、反則を犯した競技者とタイムキーパーに、はっきりと通知されなければならない。レフェリーは退場の時間を合図するために、2本または、5本の指をあげる。

〔退場時間の計時〕

(a)　競技が中断された場合は、レフェリーが競技再開始のホイッスルを吹いたとき。

(b)　競技が中断されなかった場合は、退場させられた競技者が、サイドラインを越えたときから始まる。

〔結論〕

1　最初の退場は、犯された違反に従って、2分間または、5分間とする。

2　2回目の違反に対する退場は5分間とする。

3　いかなる場合でも、3回目の退場は、5分間とし、反則者は失格である。

4　交替競技者が反則を犯しても失格の罰則は課されない。罰則は5分間の退場とする。

″第17の18と第17の20は、追放と失格を取り扱っている″

〔第17の18〕

追放された競技者は、再び競技を続けることはできない。追放された競技者は、交替競技者の席を去るものとする。重大な違反の場合は、競技者が前に警告を受けないで追放されることもある。追放の処置は、直ちに反則を犯した競技者、コーチ、及び記録員に通知される。

〔結論〕

1　重大な違反の場合は、反則を犯した競技者は、前に警告や2分間、または5分間の退場の処置を受けずに、即座に追放される。

2　追放された競技者の交替競技者は出せない。

3　追放された競技者は、交替競技者の席を去るものとする。

〔第17の20〕

失格された競技者、または役員は、競技の残り時間全部にわたって追放され、交替競技者の席を去らなければならない。

競技者が失格された場合は、そのチームは競技場内は、失格前と同じ数の競技者とし、残りを交替競技者として競技を行なってもよい。

（例外）第17の16。∴競技者が、3回目に退場された場合。

失格の処置は、直ちに反則を犯した競技者、そのコーチ及び記録員に通知される。

〔結論〕

1　1名の競技者が失格された場合は、そのチームは1名の競技者を失なう。

2　失格された競技者または役員は、競技場と交替競技者の席を去るものとする。

3　そのチームは、競技場では7名の競技者で競技を行なってもよい。3回目の退場には注意すること。

4　そのチームは、退場時間の5分間が終ったら7名の競技者で競技を行なって、よいのである

〔結論と最後の言葉〕

残念なことだが、我々は過去の室内ハンドボールのシーズンの間（男子及び女子のヨーロッパ優勝盃争奪戦。IHFトーナメントの国際試合）で、レフェリー達によって第6のルールが適用されず、Slancev-Briac. のコースによって作成された、規定が正しく適用されなかったことに気づいている。現代のハンドボールは、夢や幻影のためにあるのではないそれは現実なのである。レフェリーは、野蛮で残酷な競技のやり方に対して立ちあがらなければならない。世界選手権やオリンピックの水準に於いてさえ、ハンドボールは、ただスピードがあって力強いだけであってはならないのであり、優雅で美しくもなければならない。競技者の健康は、ルールによって、言いかえれば、ルールを適用するレフェリーによって、保証されなければならない。競技にスピードがあって、結果がきわどいときには、相手に、″人間的に″接触するということは、常に容易であるとは限らない。レフェリーは競技者が、正しく振舞い、相手を尊敬するということに関して責任がある。私はレフェリーが、正しく、精力的に、そして勇気をもって、競技のルールを適用してくれることを要望する。

我々の観察者によって充分に資格をあたえられ、そのレポートが非常に優れているレフェリーのみが、モントリオールで、試合を指揮するチャンスを持てるであろうルールの文章は明瞭である。だからどうぞ、そのルールに従って指揮していただきたい。レフェリーの水準は、モントリオールで競技を行なうチームの水準と同じように立派でなければならない。もし違反が犯されたならば、どうぞ勇敢に、手際よく反応し、自分が立派な人物であることを示していただきたい。

競技を行なうもののモットーである “Citius-altins-fortius„ 即ち″正義—厳正—誠実″と言う言葉は、他の言葉とともに、レフェリーにもあてはまるのである。そうすれば、スポーツは、それが本来あるべき姿。即ちなにか重大でないものではあるけれど、重大でないものの中ではこの世で一番美しいものとなることであろう(了)

女子３大陸代表決定戦は来年６月に

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）は、モントリオールオリンピックの女子参加国のうち、「３大陸（アジア・アフリカ・アメリカ）代表決定戦」を、本誌既報のとおり、来年６月、ワシントンで行うことを確定した。

いまのところ会期は、６月24日から７月４日まで、３ケ国２回総当りの予定。

アジア代表は、すでに日本に決まっており、日本が、今冬の世界女子選手権で上位４ケ国に食いこんで、オリンピック出場権を手にした場合は、改めて予選を行うことになりそうだ。

「審判員規定」一部変更を準備

日本協会審判部は「公認審判員規定」の一部変更について検討を進めていたが、このほどまとまり全国代議員に郵便投票によって諾否を求めている。

変更案のうち、各級新認定料は次のとおり示された。

▽Ｄ級　500円（他にコイン、ワッペン、審判手帳代として千五百円）▽Ｃ級　千円▽Ｂ級　千五百円▽Ａ級二千円。

佐賀国体配分案持ちこす

日本協会は、10月19日の月例常務理事会で、佐賀国体（51年10月）の種別配分について協議したが、結論を出すまでにはいたらなかった。

論議のうち「少年男10、女18」という従来の基本線を変えずに進むことが、まとまりかけたが議決されず、10月末にすべてを持ちこした。

野原代議員（大阪）逝く

日本協会代議員、大阪協会長・野原成乃亮氏は10月13日午前５時30分、大阪市東区の病院で脳軟化症のため急逝された。56才。

葬儀は、10月15日同氏経営の多田ハイグリーンゴルフ場でしめやかに行われたが、過去13年間、大阪協会をささえ、大きな足跡を残されたかただけに、ハンドボール関係者多数の参列が目立ち、木野実氏（湧永薬品、全日本）ら６人がユニホーム姿で棺を捧げ愛惜の念をいっそう強くした。

（大阪協会報導部）

お詫び　一関高専は岩手

本誌134及び135号の全国高専選手権記事中、準優勝校・一関高専を福島としましたのは、岩手の誤りでした。

つつしんで訂正するとともに、同校並びに所属協会にごめいわくをおかけしましたことをお詫びします。

▼誌面の都合により「明日への提言」「編集後記」は休載します。

中央の優勢動かず
九州で全日本学生選手権
女子は混戦か

第18回(女子第10回)全日本学生選手権は、11月5日から9日まで初の九州開催として福岡市民体育館で行われる。
参加校は、男子が全国8学連から推せんされた32校、女子が12校、いずれもナックアウトシステムで争われる。
優勝の行方を探ってみた。

▼男子、今年は組み合わせが巧くいったのか、例年みられるような有力校の集中が少なく、ベストエイトを占うのは、比較的らくだ。
まず、Aブロックでは2連勝を目指す早稲田(関東)と大阪体大(関西)。
Bブロックは日体(関東)と慶応(関東)。
Cブロックは九州産大(九州)と法政(関東)×名城(東海)の勝者。
Dブロックは日大(関東)と中央(関東)が、それぞれ有力である。

このうち、破たんがあるとすれば中京(東海)、甲南(関西)のからむ慶応のパートと、同志社(関西)×芝浦工大(関東)の勝者が九州産大をとらえるか、だろう。
法政×名城は、名城の気力がカギ。村田(全日本)を軸に試合運びの巧みな法政のペースに誘いこまれてしまうと拙い。
力では山本、鈴木(ヤング全日本)高橋らで名城も見劣りしない。
8強の激突を展望してみよう。
早稲田×大阪体大は、大阪が、巧者・根本を要に丸井(ヤング全日本)、矢辺、能波、北川らで自信にあふれている。
大型選手の卒業で、スケールがやや小さくなった早稲田は、山田山高らでまとまっているものの、苦しい展開になりそう。
接戦をつねに切り抜けている早稲田の地力有利の声もあるが、編集子は、大阪体大進出としてみたい。
日体のブロックは、慶応が相手になると、今季の慶応は、日体に自信をもっているだけにもつれる可能性も出てくる。
慶応の強敵は、むしろ中京、甲南とつづく序盤の相手だ。

九州産大にも期待

九州産大は今大会の〝目〟といえる。西日本学生で3年連続2位の実績をもち、中馬、磯口、青柳、金谷らの攻撃力は注目に価する。
ホームコートの利もあり、法政名城どちらが勝ちあがってきても予断は許さない。
中央は油断さえしなければ独走となろう。
日大は関東2部だし、明治(関東)、京都産大(関西)にしても「一発の斗志」に期待はかかるもの、蒲生(全日本)をはじめ大熊、関藤本(いずれもヤング全日本)戸田、西窪、金沢、GK田村ら厚味のある中央のチーム力を突破するのは難しそうだ。

興味深い大体大、法政

予想どおり進めばベストフォアは、大阪体大—日体×慶応の勝者法政×九産大の勝者—中央となるわけで後者のカードを優勝争いのポイントとみてよい。
法政は、関東学生秋季では、村田、GK柴田(全日本)の二本柱がプレオリンピックのために、充分な力を発揮できず、上滝、青山、阿部らこの大会へかける斗志は盛んなものがある。
47年以来タイトルから遠ざかり前回は遂にベストエイトにももれた日体は、挽回のチャンスだが、斉藤幸(全日本)、菅野(ヤング全日本)、GK斉藤将(全日本)ら好選手を揃えながら、安定感に欠け伝統の試合巧者ぶりもカゲをひそめている。この点が気がかりである。
慶応は、関東学生で春4位、秋5位(2勝)と相変らずムラが多いが、福地、川崎、勝地ら巧者を揃え、波にのると初の強入りが望めよう。
大阪体大は、東西対抗(9月)での西軍勝利を巧く自チームの斗志に置きかえているようで、決勝進出も夢ではないが、なんといっても早稲田戦が、大きなヤマであろう。ここで勢いづくと面白い。
中央が法政を突き放せば、関東学生春秋につづいて、待望の初優勝を遂げるのではなかろうか。
中央優勢の大会といっていい。
なお、地方勢では山口大(中国)東北学院(東北)、熊本商大(九州)金沢大(北信越)、北大(北海道)らに好チームの呼び声が高く、特に東北学院が緒戦で大阪体大にどう挑むか興味深い。このほか大経大、近大の関西勢が波にのるとこわい。

安定感に欠ける各校

◆女子 やはり今年も日体(関東)が強そう、勝てば6連覇だと書いたところへ関東学生で、東女体大(関東)に連敗、優勝を逸した報が入った。混戦の様相である。
西日本ナンバーワンの武庫川女(関西)をはじめとする中京(東海)東京学芸(関東)、中京女(東海)、大阪体大(関西)、らの対抗グループも、一ころの女子学生界のルレべからすれば数段の強味を加えているが、いわゆる〝地力〟というものがまだまだ備わっていない。
波にのるとよいが、一つリズムを崩すと低調になってしまうのだ
東女体大にしても、リーグの好調を持続できるか、となると不安が多い。しかし、行きつくところは2年つづけて日体×東女体の決勝ではなかろうか。日体は準決勝に予想される武庫川女戦、東女体大は、大阪体大戦が大きなヤマ。
ダークホースは東京学芸大。

□……男　子……□

早稲田
福岡大
近大
愛知教大
国士館
山口大
大阪体大
東北学院
東京教大
大分大
日体
北大
甲南
金沢工大
慶応
中京
同志社
芝浦工大
九州産大
仙台大
名城
愛媛大
大阪経大
法政
大阪大
熊本商大
金沢大
日大
京都産大
明治
岐阜大
中央

□……女　子……□

日体
岐阜大
山口大
日女体大
武庫川女
中京
東京学芸
福岡教大
中京女
東京教大
大阪体大
東女体大

関東学生　中央、鮮やかな春秋制覇（通算6度目）

関東学生秋季リーグ戦（男子）は、9月24日から10月19日まで東京・駒沢体育館を主会場に、1部から4部までが各8校、5部が新たに東京医科歯科大、大東文化、東洋の3校を加え17校となり、あわせて59校が参加、熱戦をくりひろげた。

注目の1部は、前季Bクラスに落ちた日体が、序盤で有力校と対戦、慶応、法政を破り、早稲田、中央に善戦したため、もつれた様相を示した。

そのなかで中央が持てる力を存分に発揮、着実に勝ち星を加え第6日(10月15日・駒沢体育館)、1敗の早稲田を突き放して最終日を待たず2シーズン連続6度目の優勝を決めた。春秋制覇は47年度についで2度目のこと。

激烈だったのは2位争い。第6日を終って早・法・日体が4勝2敗で並び最終日に早、日体が勝って同率、日体は3シーズンぶりで2位についた。

法政は村田、GK柴田をプレオリンピックに送ったこともあり乱調。

5位以下では総勢9人で頑張りぬいた明治の気力が光り、前季4位の慶応はもろさを露して期待はずれだった。芝浦、教大は善戦しながらも結局、入れ替え戦（10月29日）出場となった。

2部は第5日で全勝校がなくなる混戦となり最終日まで激しい首位争いを演じた末、日大、東京学芸大がともに6勝1敗、得失点差で日大の優勝（6度目）と決まった。

3部は、雨天で2試合が残ってしまい、6戦全勝の青山学院と、5勝1敗の防衛大が、1位に最短離のまま、閉幕を迎えていない。防衛大が東京工大戦を落とすと5勝2敗の立教と並び、2位が微妙になってくる。

4部は専修の初優勝と4位までの順位が決まったが、このほかは延びている日本工大—武蔵大戦の結果待ち。

5部は17校が4組に分かれリーグ戦のあと、各組同位で順位決定戦で千葉商大が初優勝を遂げた。

5部の今季9位以下9校が来シーズンから6部となる。

得点王は、1部が菅野肇（日体湯沢高出）42点、2部が八木辰哉（駒沢、マリスト学園出）53点と決まった。3、4部は後日発表される。八木は47年秋、5部得点王になった選手。

なお、今季の優秀選手（ベストセブン）は、GKが田村(中央)、EPが大熊、戸田、蒲生（いずれも中央）、菅野（日体）、村田（法政）、山田(早稲田）と決まり閉会式で表彰をうけた。

日体、序盤戦かきまわす

▽1部

中央 25（13—7、12—9）16 東京教大

明治 19（9—6、10—6）12 法政

早稲田 30（18—11、12—6）17 芝浦工大

日体 17（13—8、4—7）15 慶応

【慶応】	得		【日体】	得
米内	0	GK	斉藤将	0
		GK	清水	0
福地	3	FP	菅野	7
川崎	3	FP	斉藤幸	4
西村	2	FP	坂本	1
浅野	2	FP	大房	1
勝地	4	FP	広瀬	0
木村	1	FP	後川	1
保坂	0	FP	半田	0
野本	0	FP	原田	0
西	0	FP	大西	3
草皆	0	FP	池之上	0
15（1）		PT	（4）17	

慶応 25（12—10、13—9）19 芝浦工大

法政 17（9—6、8—6）12 東京教大

中央 24（13—10、11—5）15 明治

早稲田 18（6—11、12—10）17 日体

早稲田 14（9—7、5—6）13 東京教大

明治 20（8—9、12—7）16 慶応

中央 27（15—8、12—9）17 芝浦工大

日体 24（17—8、7—9）17 法政

【法政】	得		【日体】	得
柴田	0	GK	斉藤将	0
由利	0	GK	清水	0
村田	4	FP	菅野	7
上滝	5	FP	斉藤幸	3
青山	2	FP	後川	4
阿部	3	FP	半田	3
古関	2	FP	坂本	4
辻	1	FP	大房	1
橋本	0	FP	広瀬	0
小山	0	FP	大西	2
中野	0	FP	池之上	0
角本	0	FP	原田	0
17（1）		PT	（3）24	

法政 28（15—9、13—11）20 芝浦工大

早稲田 19（12—6、7—8）14 明治

【明治】	得		【早大】	得
岡部	0	GK	阪本	0
		GK	安田	0
山根	1	FP	山田	6
石井	3	FP	山高	2
江幡多	2	FP	明石	0
松本	5	FP	鈴木	1
加納	3	FP	泉	2
辻	0	FP	洞ケ瀬	5
山本	0	FP	北里	0
		FP	武井	3
		FP	石川	0
		FP	吉見	0
14（1）		PT	（3）19	

慶応 17（12—7、5—8）15 東京教大

中央 21（9—11、12—7）18 日体

芝浦工大 19（12—4、7—10）14 明治

日体 20（11—7、9—3）10 東京教大

法政 17（10—11、7—5）16 早稲田

中央 15（7—5、8—9）14 慶応

芝浦工大 21（13—4、8—7）11 東京教大

【教大】	得		【芝浦】	得
上原	0	GK	新井田	0
須波	0	GK		0
藪野	1	FP	舛屋	2
中村	1	FP	伊集院	0
川原	0	FP	栗林	0
竹内	2	FP	斉田	5
佐藤	2	FP	押切	6
浜田	2	FP	安中	2
西川	0	FP	柳沢	2
小西	1	FP	柳原	4
橋本	0	FP	三島	0
白井	2	FP	千葉	0
11（0）		PT	（0）21	

日体 16（9—6、7—7）13 明治

法政 26（11—12、15—6）18 慶応

最終日待たず中央優勝

中央 20（9—11、11—6）17 早稲田

【早大】	得		【中央】	得
阪本	0	GK	田村	0
安田	0	GK	小松	0
山田	2	FP	大熊	3
山高	4	FP	戸田	1
明石	0	FP	蒲生	5
鈴木	2	FP	西窪	7
泉	3	FP	金沢	1
洞ケ瀬	5	FP	関	3
北里	1	FP	坪子	0
武井	0	FP	大林	0
石川	0	FP	大久保	0
吉見	0	FP	長野	0
17（0）		PT	（0）20	

○……勝負のヤマは、結果から云えば、前半なかば5—5のあと中央が5点をたたみかけた場面にあった。

5点のうち3点は、相手のロングパスをインターセプト、戸田、蒲生(全日本)らが独走で持ちこんだもの。大熊をはじめとする全員の忠実な帰陣がもたらした好プレーと云える。

早稲田も後半、攻撃陣の立ちなおりで追いあげたが3点差まで詰め寄ってははね返され前半の傷口

に泣いた。

今季の中央は安定した試合運びで危気なく、GK田村の固い守りも勝因の一つだ。（杉山）

東京教大 14（9―5、5―8）13 明治

日体 24（12―11、12―8）19 芝浦工大

早稲田 18（9―3、9―9）12 慶応

中央 24（11―10、13―9）19 法政

得	【中央】		【法政】	得
0	田村	GK	柴田	0
0	小松	GK	由利	0
5	大熊	FP	村田	7
4	戸田	FP	上滝	6
4	西窪	FP	古関	2
1	関	FP	阿部	1
7	蒲生	FP	青山	2
2	金沢	FP	辻	0
1	坪子	FP	橋本	1
0	大林	FP	水本	0
0	足立	FP	角本	0
0	由利	FP	小山	0
24	（0）	PT	（19）	0

日大、混戦を脱け出す

▽2部

国士館 16（11―8、5―8）16 東海　引き分け

駒沢 20（12―5、8―7）12 順天堂

東京学芸大 19（11―0、8―3）、千葉工大

千葉工大 不戦勝 明星

東京学芸大 14（8―7、6―6）13 日大

国士館 19（11―7、8―10）17 駒沢

順天堂 20（8―5、12―6）11 東海

東京学芸大 19（11―8、8―8）16 国士館

日大 26（11―5、15―4）9 明星

得	【日大】		【学芸】	得
0	高村	GK	阿部	0
0	大畑	GK	増田	0
1	阿部	FP	内田	0
0	菊地	FP	金村	2
6	大塚	FP	早川	3
0	田山	FP	谷口	4
0	桜井	FP	古屋	1
3	新井田	FP	永井	0
0	前島	FP	星	0
3	今井	FP	中西	0
0	山口	FP	吉原	3
0	堂尻	FP	坂本	1
13	（4）	PT	（2）	14

駒沢 22（13―8、9―10）18 東海

日大 26（14―7、12―5）12 千葉工大

順天堂 23（13―12、10―5）17 国士館

国士館 25（13―11、12―5）16 明星

東京学芸大 16（9―0、7―6）0 順天堂

日大 23（10―0、13―1）0 東海

東京学芸大 22（9―4、13―4）8 東海

駒沢 18（9―6、9―6）12 明星

国士館 23（11―10、12―5）15 千葉工大

順天堂 25（13―3、12―9）12 千葉工大

明星 24（14―7、10―10）17 東海

駒沢 31（10―3、21―3）6 千葉工大

日大 16（9―7、7―6）13 順天堂

明星 12（5―4、7―5）9 東京学芸大

順天堂 18（10―10、8―7）17 明星

千葉工大 13（10―5、3―6）11 東海

日大 13（4―1、9―6）7 駒沢

駒沢 21（15―7、6―4）11 東京学芸大

日大 20（12―11、8―6）17 国士館

関東学生（男子1部）

	中	体	早	法	明	慶	芝	教	P	点差
①中央	…	○	○	○	○	○	○	○	14	
②日体	●	…	●	○	○	○	○	○	10	
②早大	●	○	…	●	○	○	○	○	10	
④法政	●	●	○	…	●	○	○	○	8	
⑤明治	●	●	●	○	…	○	●	●	4	−12
⑤慶応	●	●	●	●	●	…	○	○	4	−12
⑦芝浦	●	●	●	●	○	●	…	○	4	−39
⑧教大	●	●	●	●	○	●	●	…	2	

【2部順位】①日大6勝1敗（得失点差63）②東京学芸大6勝1敗（36）③駒沢・順天堂4勝3敗⑤国士館3勝3敗1分⑥明星2勝5敗（－35）⑦千葉工大2勝5敗（－60）⑧東海1分6敗

総評

福地賢介（関東学連理事長）

一言で云えば「低調」のシーズンであった。

スコアからみると上・下位校の差がつまり、実力が接近した感じを抱かすが、下位校のレベルアップより、上位校の落ちこみのほうが目立ち、けして喜ばしい〝内容〟ではなかった。

特に「身体をはったプレー」―この表現がよいか悪いかは別にして―が、めっきり減っている。

攻防両面で気迫のみなぎった試合は、数えるほどしかなく、いたずらに小手先の技巧にはしっている傾向は、ますます社会人を筆頭とする国内トップレベルから置さざりにされてしまう危機感を強めた。

各校監督も、指導法の再検討を心がけているようだが、はたして技術的な指導が必要なのか、メンタルな面の指導が先なのか難しい問題である。

残念なことだが、往時の活況を取り戻すには、時間がかかりそうで、本当の意味でファンにアピールする試合が続くようになる兆は「ない」とさえいってよい。

改めて、各校監督、OBそれに〝主役〟である選手諸君の研究、反省、自覚を望みたい。

そうしたことから、一部は、8校どこが優勝してもおかしくないレベルの均衡化がみられたのだがミスの少ない中央が選手層の厚さもあって勝ち進んだ。このほか、日体が復調を示し注目された。

男子の低迷に引きかえ、女子は5校による史上初の2回戦制を採ったこともあり、なかなか活気があった。

社会人に頭をおさえられ、後から高校界に追いかけられるような女子学生界の現況を打開するには、互いに腕をみがく場を増やすしかない。

来季以降は、いっそうこのシステムが軌道へのると思う。

実は、男子(1部)にも、一部で「6校2回戦制」を採ったらどうか、という声がある。

しかし、各校の思惑もからむし、必しもそれが〝向上〟へ無二の道とは云い切れない。今後の課題として考えていくつもりだ。

（早大OB）

関西は大体大8連覇

（速報）関西学生秋季リーグ（1部）は10月19日、全日程を終え大阪体大が8シーズン連続（通算8度目）優勝を飾った。

大阪体大は第3日近大に11―18で敗れ、好調に勝ち進んだ京都産大の初優勝の色が濃かったが、最終戦で大阪体大は京都産大を17―9で破り同率（6勝1敗）にこぎつけ、得失点差で辛くも首位を守った。3位以下は大阪経大、同志社、近大、大阪大、甲南の順。

女子は、武庫川女が3シーズンぶり3度目の優勝。（詳報次号）

青山学院、6勝でトップ

▽3部
立教 12―7 東大
成蹊 24―11 東京工大
防大 20―7 関東学院
青山学院 18―14 防大
茨城大 9―7 関東学院
立教 10―7 成蹊
東京工大 15―11 東大
関東学院 16―10 成蹊
青山学院 21―10 東大
立教 11―7 茨城大
関東学院 9―6 東大
青山学院 20―13 成蹊
茨城大 19―10 東京工大
防大 9―7 立教
青山学院 9―8 立教
東京工大 17―11 関東学院
東大 13―10 茨城大
防大 20―15 成蹊
東大 18―5 成蹊
立教 24―7 東京工大
青山学院 18―12 関東学院
防大 11―10 茨城大
青山学院 22―14 東京工大
立教 12―7 関東学院
成蹊 12―10 茨城大
防大 8―5 東大

この結果、立教5勝2敗、関東学院、成蹊、東大はいずれも2勝5敗。
他の4校は各1試合を残している。

専修の優勝決まる

▽4部
専修 19―8 東京経大
武蔵工大 17―13 武蔵
横浜商大 16(分)16 千葉大
上智 22―7 日本工大
武蔵 15―13 横浜商大
専修 21―9 日本工大
武蔵工大 27―17 千葉大
上智 13(分)13 東京経大
横浜商大 13―10 東京経大
武蔵 17―13 上智
武蔵工大 25―13 日本工大
専修 22―8 千葉大
武蔵工大 27―7 東京経大
千葉大 12―9 上智
横浜商大 25―12 日本工大
専修 21―8 武蔵
上智 16―10 武蔵工大
専修 16―10 横浜商大
東京経大 19―10 千葉大
千葉大 20―18 武蔵
東京経大 26―12 日本工大
専修 22―6 上智
横浜商大 22―18 武蔵工大
日本工大 16―9 千葉大
武蔵工大 12―11 専修
東京経大 14―5 武蔵
横浜商大 15―9 上智

【4部順位】①専修6勝1敗②武蔵工大5勝2敗③横浜商大4勝1分2敗④大阪経大3勝1分3敗、
他の4校は順位未決定。

(注)3、4部は10月18日に予定された計3試合が雨天のため中止され、全順位の決定が遅れている。
なお、各部入れ替え戦は10月29日駒沢屋内球技場で行われる予定。

17校が激戦、千葉商大勝つ

▽5部Aブロック
東洋 14―11 都立大
千葉商大 23―7 亜細亜
千葉商大 26―22 東洋
和光 24―15 亜細亜
千葉商大 23―12 和光
都立大 13―6 亜細亜
東洋 21―16 亜細亜
都立大 12―7 和光
都立大 15―12 千葉商大
東洋 25―13 和光

【順位】①千葉商大3勝1敗(得失点差28)②東洋3勝1敗(16)③都立大3勝1敗(12)④和光1勝3敗⑤亜細亜4敗

▽同Bブロック
都留文化 35―2 東京写真大
埼玉大 13―11 独協
都留文化 21―12 独協
埼玉大 17―5 東京写真大
独協 10―4 東京写真大
都留文化 19―8 埼玉大

【順位】①都留文化3戦全勝②埼玉大2勝1敗③独協1勝2敗④東京写真大3敗

▽同Cブロック
明治学院 24―12 東京医歯大
横浜市大 不戦勝 東京農工大
横浜市大 19―11 明治学院
東京医歯大 不戦勝 東京農工大
横浜市大 35―9 東京医歯大
明治学院 不戦勝 東京農工大

【順位】①横浜市立大3戦全勝②明治学院2勝1敗③東京医科歯科大1勝2敗④東京農工大3敗(棄権)

▽同Dブロック
大東文化 14―12 神奈川大
一橋 17―8 東京理科大
一橋 13(分)13 神奈川大
東京理科大 22―10 大東文化大
一橋 21―12 大東文化大
東京理科大 14―8 神奈川大

【順位】①一橋2勝1分②東京理科大2勝1敗③大東文化大1勝2敗④神奈川大1分2敗

▽同順位決定戦・13～16位決定リーグ
神奈川大 17―12 亜細亜
和光 19―2 東京写真大
神奈川大 19―9 東京写真大
和光 15―8 亜細亜
神奈川大 18―13 和光
亜細亜 14―7 東京写真大

【順位】⑬神奈川大⑭和光⑮亜細亜⑯東京写真大

▽同・9～12位決定リーグ
大東文化 25―2 東京医歯大
都立大 15―8 独協
独協 12―8 大東文化
都立大 不戦勝 東京医歯大
独協 18―10 東京医歯大
都大立 20―13 大東文化

【順位】⑨都立大⑩独協⑪大東文化⑫東京医科歯科大

▽同・5～8位決定リーグ
東京理科大 12―11 明治学院
東洋 24―9 埼玉大
東京理科大 19―12 埼玉大
東京理科 11―10 東洋
明治学院 17―11 埼玉大
明治学院 23―15 東洋

【順位】⑤東京理科大⑥明治学院⑦東洋⑧埼玉

▽同・1～4位決定リーグ
一橋 没収試合 横浜市大
千葉商大 16―12 都留文化
横浜市大 16―15 一橋
一橋 23―13 都留文化
千葉商大 26―17 横浜市大
千葉商大 27―11 一橋

【順位】①
【順位】①千葉商大3戦全勝②一橋2勝1敗③都留文化1勝2敗④横浜市立大3敗。

来季から6部制

関東学連は秋季リーグ戦終了後、来年春のリーグ戦から、男子は史上初の6部制を採ると発表した。
6部に参加するのは、今秋、5部で9位以下となった各校。競技法式は新加盟や復帰なども予想されるため、来春決められる。
(6部参加確定校)都立大、独協、神奈川大、和光、亜細亜、東京写真大、大東文化、東京医科歯科大、東京農工大。

東女体の優勝成る　関東女子

関東学生秋季リーグ戦（女子）は、5校制になって初の2回戦制を採用、9月24日から10月19日まで東京・駒沢屋内球技場を主会場にして行われた。

2回戦制は38年秋から41年春までの3大学時代、6季にわたって採用されたことがある。

「2回戦制（全10試合）を乗り切るには、選手層の厚味と、選手の使いかたがカギ」と各校監督は云っていたが、終盤もつれたのは、やはり長丁場のコンデイショニングの難しさを示したものといってよいだろう。

日女体大が善戦しながらも全敗で終ったほかは、4校ともそれぞれ目標の順位をかけて激戦。

5連覇を目指す日体はエース藤山をヒザの故障で欠きながら順当に勝ち進み対抗と目された東女体大が、学芸大2回戦で痛い星を落としたこともあって、独走かとみえた。

しかし、奮起した東女体は、日体1回戦ですばらしい攻撃をみせ快勝、6勝1敗の同率にこぎつけ2回戦で優勝をかけることになった。

勢いにのる東女体大は、スタートから好調にポイント、守りも出足のよさをみせて、日体の切りこみを許さず快勝、3シーズンぶりで宿敵をおさえて優勝（4度目）を飾った。

得点王は30ゴールをマークした林ふじ（日体、生田高出）選手。

日体、4連覇で止まる

①日体 14（9—4、5—7）11 東京教大

①東京学芸大 10（5—5、5—2）7 日女体大

②日体 14（6—5、8—2）7 東京教大

②東京学芸大 12（6—3、6—4）7 日女体大

①日体 16（9—3、7—5）8 日女体大

①東女体大 16（12—2、4—4）6 東京教大

②日体 25（12—2、13—5）7 日女体大

②東女体大 10（5—1、5—7）8 東京教大

①東女体大 14（7—3、7—4）7 日女体大

①日体 15（8—5、7—7）12 東京学芸大

②東女体大 20（9—3、11—3）6 日女体大

②日体 15（8—5、7—4）9 東京学芸大

①東女体大 12（5—2、7—4）6 東京学芸大

①東京教大 9（6—3、3—2）5 日女体大

得	【日体】	①	【学芸】	得
0	長谷川	GK	高　橋	0
0	大　森	GK	芳　賀	0
2	小　田	FP	永　沢	1
1	木　元	FP	斉藤昭	5
4	寺尾淳	FP	星　野	0
5	林	FP	前　田	0
0	岩　本	FP	山　田	4
0	内　田	FP	斉藤順	1
0	中　村	FP	寺　井	0
0	水　口	FP	松　田	1
3	宮　崎	FP	白　井	0
0	藤　井	FP	渡　辺	0
15（1）		PT		（0）12

得	【教大】	①	【日女】	得
0	坂　梨	GK	田草川	0
0	松　永	GK	山　岸	0
1	土　屋	FP	高　野	4
0	中　島	FP	渡　辺	0
0	神　宮	FP	前　島	0
0	三　井	FP	炭　谷	0
4	坂　本	FP	奥　富	1
2	菊　地	FP	三　沢	0
0	金　長	FP	川　野	0
0	森　戸	FP	菅　谷	0
0	吉　本	FP	村　沢	0
0	岩　内	FP	鈴　木	0
9（2）		PT		（0）5

②東京教大 16（8—3、8—2）5 日女体大

②東京学芸大 10（5—4、5—5）9 東女体大

得	【学芸】	②	【東女】	得
0	高　橋	GK	鍋　田	0
0	芳　賀	GK	横　田	0
3	山　田	FP	赤　岸	0
0	奈　倉	FP	高　橋	1
1	星　野	FP	橋	0
2	斉藤昭	FP	寺　田	0
3	永　沢	FP	田　中	0
1	松　田	FP	三　沢	1
0	寺　井	FP	岩　永	2
0	白　井	FP	中　田	4
0	斉藤順	FP	西　峰	1
0	渡　辺	FP	山　口	0
10（1）		PT		（1）9

①東京教大 13（5—6、8—1）7 東京学芸大

①東女体大 16（7—4、9—9）13 日体

得	【東女】	①	【日体】	得
0	鍋　田	GK	長谷川	0
0	横　田	GK	大　森	0
6	赤　岸	FP	岩　本	3
0	高　橋	FP	林	3
2	橋	FP	寺尾淳	1
4	三　沢	FP	木　元	2
3	岩　永	FP	小　田	4
0	甲　斐	FP	中　村	0
0	中　田	FP	宮　崎	0
1	西　峰	FP	門　田	0
0	山　口	FP	藤　山	0
0	田　中	FP	藤　井	0
16（2）		PT		（2）13

②東京教大 12（8—1、4—5）6 東京学芸大

②東女体大 14（6—5、8—3）8 日体

得	【日体】	②	【東女】	得
0	長谷川	GK	鍋　田	0
0	大　森	GK	横　田	0
2	木　元	FP	赤　岸	3
1	寺尾淳	FP	高　橋	3
2	小　田	FP	橋	0
2	林	FP	岩　永	3
1	岩　本	FP	中　田	0
0	宮　崎	FP	西　峰	4
0	門　田	FP	三　沢	1
0	中　村	FP	寺　田	0
0	藤　山	FP	田　中	0
0	藤　井	FP	甲　斐	0
8（0）		PT		（0）14

関東女子学生（1部）

	東女	日体	東教	学芸	日女	勝	負
①東女体	……	○○	○○	○●	○○	7	1
②日　体	●●	……	○○	○○	○○	6	2
③東教大	●●	●●	……	○○	○○	4	4
④学芸大	●○	●●	●●	……	○○	3	5
⑤日女体	●●	●●	●●	●●	……	0	8

▽優秀選手（ベストセブン）・GK鍋田（東女体大）・FP赤岸、高橋、三沢（以上東女体大）、小田、林（以上日体）、森戸（東京教大）

女子準加盟校リーグ

千葉大が強味示す

「インター・ミンクス」と名乗って活動していた関東5大学の女子チームが、今秋から関東学連傘下に入り、準加盟校扱いで対戦、千葉大が4戦全勝、1位となった。

各校とも来春から正式加盟の手はずをととのえており、「関東学連女子2部」として〝新発足〟する。

都留文化 16（6—4、10—2）6 青山学院

都留文化 18（10—2、8—2）4 学習院女子短大

千葉大 13（6—4、7—3）7 都留文化

青山学院 15（7—0、8—0）0 学習院女子短大

千葉大 6（3—2、3—2）4 茨城大

千葉大 10（9—2、2—2）4 青山学院

茨城大 23（13—0、10—0）0 学習院女子短大

千葉大 16（11—0、5—1）1 学習院女子短大

茨城大 6（4—2、2—4）6 都留文化

引き分け

茨城大 15（11—1、4—2）3 青山学院

【順位】①千葉大4戦全勝②茨城大・都留文化2勝1分1敗④青山学院1勝3敗⑤学習院女子短大4敗

「日本リーグ」実施へ大きく前進

準備委が結論

日本リーグの実施について話し合う準備委員会が、10月16日午後名古屋の愛知県体育館会議室で開かれ、来年度から、日本リーグを発足させることが、ほぼ確定的となった。

出席したのは、日本協会側は安藤純光3部合同会議々長ら4委員(1委員欠席)、全日本実連側は山田稔理事長ら5委員(3委員欠席)の9名で、およそ3時間にわたって話し合いが行われた。

日本リーグ問題は、過去いくどとなく、出ては消え、消えては出たが、今回のように、その実施を前向きに検討するといううたてまえで会合が開かれたのは、初めてのこと。

会議は、まず全日本実連側が、現行の全日本実業団リーグを、来年度から日本リーグと改称し、男女各8チームづつ春・秋2回総当り(総試合数・112)で行うとする計画を改めて説明した。

日本協会側に、日本実業団リーグのままでよい、とする空気がまったく消えていたわけではなかったため、初歩レベルのやりとりもあったが、全日本実連側は、〝改称〟については、7月の日本協会月例常務理事会で報告ずみだ、として一気に具体的な運営問題に焦点をしぼることを強調した。

全日本実連が、改称にあたって日本協会とのタイアップをこれまで以上に打ち出してきたのは、都道府県実連の組織化が進まず、日本リーグを運営していくうえには日本協会の組織(都道府県協会)の強いバックアップが欠かせないためで、一部の実連関係者は「これまでの全日本実業団選手権(日本実業団リーグ)は全日本実連と日本協会の共催だったが、日本リーグは、日本協会一本の主催でもよい」と云っていたほど。

この日の議論では、両者共催の線は、そのまま据えおかれ、準備委員会の〝結論〟として年内に開催を予定される全国代議員会へ「明年度から日本リーグを実施したい」とする提案を持ちこむことにまとまった。

これまでの2年間、日本実業団リーグの開催を引きうけていた地方協会は、日本リーグに改称したほうが、すべての面で有利だ、としており、日本リーグの実施は、これでいちだんと色濃くなった。

今後の問題は、全日本総合選手権とのからみ、都道府県協会がどの程度の関心を示すかにかかっている。

全日本実業団選手権をどうするかも一つの課題だ。各試合に開催権料を付し日本協会収入とするという皮算用は、この日の会議でさえ、消極的な意見が出された。

なお、日本リーグ発足の場合、加盟するチームは、やはり実業団に限られそうで、全日本学連・中沢重夫理事長は非公式の席で「日本協会や全日本実連側から公式な話が持ちこまれれば、学連としても議題とするが、個人的な感触では、経費の点で学生チームはつきあいきれまい」と話しており、全日本教職員界も、同ようの意向と伝えられる。

実連ジュニア合宿に30名参加

全日本実連は、10月9日から12月日までの4日間、茨城県勝田市の自衛隊施設学校で第3回全日本実業団ジュニア強化合宿(男子)を行った。参加30選手は次のとおり。

佐野、徳田、沖本、関本(以上日新製鋼呉)、大谷、赤嶺、柴田(以上神戸製鋼)、卯野、千葉、雨宮(以上東京重機)、清水、相沢、川上(以上原研)、内山、石丸(以上日本石油精製)、梅屋、緒方(以上三陽商会)、中本、清崎(以上大同製鋼)、岩上、阿久根(以上新日鉄名古屋)、九星、東(以上日鉄建材)、額賀、宮川(以上自衛隊勝田)、山田、大塚(以上トヨタ車体)、長南(自衛隊神町)、浦嶋(日本ゼオン)、仲田(セントラル自動車)

オリンピック ヨーロッパ予選開幕へ

モントリオール・オリンピック(51年7月)地域予選のトップを切って、ヨーロッパ地域予選が11月3日から幕をあける。

ヨーロッパ地域は、代表7カ国のところへ22カ国がエントリー、第3群へ組み入れられたファロー諸島はその後、同国がIOC(国際オリンピック委員会)未加盟と判り、結局21カ国が3カ国づつ7組に分かれて、それぞれ2回総当りで代表権を争うことになった。

予選試合総数は42で、6節に分けて消化、来年3月、7代表が出揃う予定。

11月の日程は別表のとおりだが第3節は12月15~21日、第4節は51年2月2~8日、第5節は2月16~22日、第6戦は3月1~7日となっている。

代表の呼び声が高いのは、ミュンヘン優勝のユーゴスラビアをはじめ、ハンガリー、ソ連、ポーランド、デンマークなどで第2群のチェコ×スウェーデン、第5群の東ドイツ×西ドイツは予断を許さない。

なお、世界選手権優勝国ルーマニアには、すでに本番への出場権が与えられている。

モントリオールオリンピック 欧州地域予選11月の日程

▷第1節(11月3日~9日,各地)

- ・ユーゴ×ルクセンブルク(第1群)
- ・チエコ×イタリア(第2群)
- ・ハンガリー×スイス(第3群)
- ・ソ連×オーストリア(第4群)
- ・東ドイツ×ベルギー(第5群)
- ・ポーランド×イギリス(第6群)
- ・デンマーク×オランダ(第7群)

▷第2節(11月24日~30日,各地)

- ・ルクセンブルク×アイスランド(第1群)
- ・イタリア×スウエーデン(第2群)
- ・スイス×ブルガリア(第3群)
- ・オーストリア×フランス(第4群)
- ・ベルギー×西ドイツ(第5群)
- ・イギリス×ノルウエー(第6群)
- ・オランダ×スペイン(第7群)

(注)14カードはいずれも1回戦左側がホームチーム。

普及指導の全国委

日本協会普及指導部は、年少者対策(ジュニア向け競技規則の制定)や、クラブチームの現状把握などを企るため、11月3日名古屋のブラザー工業体育館で、全国委員会を開く

アフリカは4月に

IHF(国際ハンドボール連盟)は、モントリオール・オリンピックの、アフリカ地域予選(代表1)を、来年4月10日から19日までナイジェリアで開く

☆★☆★☆★☆
海外トピックス

杉山茂
（NHK運動部）

ユーゴ、連勝へ着々
〜ソ連女子国際〜

今月もまず、世界選手権を1カ月後に控えた女子の動向からお伝えしよう。

有力5カ国を集めてのビッグトーナメントが9月末、ソ連のサホローシエで行われ、女王・ユーゴが順調な仕上りをみせて優勝を飾った。

ユーゴは地元ソ連と引き分けた以外は地力を示し、専問家筋はユーゴの世界選手権2連勝をかなり有望とみている。

ソ連は、東ドイツとも引き分けたが、さすがに力をつけてきた。

しかし、バラトンカップ（前号既報）で快進撃をみせたハンガリーが、この大会では60得点、83失点で、ついに1勝もマークできず最下位になったのをみても、女子はやはりつねに波乱含みといってよいだろう。

ユーゴ　17（7—3　10—10）13　デンマーク
ソ　連　15（9—4　6—10）14　ハンガリー
東ドイツ　22（9—4　13—5）9　ソ連新人
ユーゴ　22（10—6　12—9）15　ソ連新人
デンマーク　16（7—7　9—6）13　ハンガリー
ソ　連　15（9—3　6—12）15　東ドイツ
引き分け
ユーゴ　19（8—6　11—3）9　ハンガリー
ソ　連　36（20—9　16—2）11　ソ連新人
東ドイツ　17（7—6　10—4）10　デンマーク
ユーゴ　13（7—5　6—6）11　東ドイツ
ソ　連　15（9—6　6—6）12　デンマーク
ソ連新人　14（4—3　10—7）10　ハンガリー
ユーゴ　13（4—6　9—7）13　ソ　連
東ドイツ　19（9—4　10—10）14　ハンガリー
ソ連新人　19（10—5　9—6）11　デンマーク

【順位】①ユーゴ4勝1分②ソ連3勝2分③東ドイツ3勝1分1敗④ソ連新人⑤デンマーク⑥ハンガリー。

ノルウエーが順当勝ち

男子の動きは、オリンピック予選が近づいた（＝別掲）せいもあって調整を主眼とした大会が多い。

そのなかでは、中堅4カ国を集めた10月初旬のアムステルダムトーナメントが注目を集めた。

フランス　14—11　オランダ
ノルウエー　14—10　フィンランド
オランダ　17—10　フィンランド
ノルウエー　16—15　フランス
フランス　19—15　フィンランド
ノルウエー　16—9　オランダ

【順位】①ノルウェー②フランス③オランダ④フィンランド

盛んな補強で名声を

往年のスーパースター、ルブキングを引き入れ、さらに昨シーズンからユーゴの巨砲ラザレビッチを迎えるなど派手な補強をつづけている西ドイツのTUS・ネッテルスタットは、さらにユーゴからGKジブコビッチを加えた。

同選手は、ミュンヘンオリンピック優勝時、アルスラナジッチの控えとして金メダルに輝やいた巧者（一昨年の日本遠征には不参加）

ところで、ネッテルスタットは地方リーグから確実に昇格をつづけ、今季はついに全国リーグのすぐ下まで上がってきた。

わずか二千四百人の村だが、ある工場経営者が自分の会社のポストまで提供してルブキングを迎え力をあげた。

強くなれば、小さな村の名もクラブの名も全国に広まる。村民の意気もあがろうというものだ。

女子の強豪・キービツライエは人口わずか千八百人、ホームコート（体育館）は二百五十人の立ち見席だけ。ビッグカードは隣町のコートを借りる。補強の裏に〝高額の契約金〟という噂の煙は、いつも立ちのぼるが、火元が明きらかにされたことはない。

人気薄の西独女子

西ドイツは今季から女子も南、北部各8クラブによる全国リーグ（ブンデス・リガ）を組織、9月25日記念すべき幕をあけたが、このほど発表された第1週8試合の観客数をみると、最高が300人という不入り。第2週にはついに「27名」というカードがあった。

ちなみに男子第1週は8試合で約一万二千のファンを動員した。

中国で全国大会

9月7日から27日まで中国全土の代表を集めた第3回全国スポーツ大会が北京を中心に28競技にわたって開かれ、ハンドボールも初めて実施された。

ハンドボールの上位（ベストシックス）は、次のようなものであった。

（男子）解放軍、北京、広西、天津、安徽、上海
（女子）天津、広西、安徽、北京、上海、甘粛

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

株式会社　東口電機製作所
社長　東口武雄
奈良市二名町2603
TEL　0742—44—6161

中川石油株式会社
〒020　盛岡市菜園1丁目7番17号
電話（0196）23—(代)3241

医薬品並に健康関連総合商社
（株）小田島
本社　花巻市上町6—5　〒025 TEL01982-3-5162(代)
営業所　花巻，盛岡，水沢，一関，大船渡，釜石，宮古，久慈，青森，八戸，弘前，むつ，仙台，石巻，古川，気仙沼，秋田，大館，横手

うつくしく　うつくしく　よりうつくしく
Wacoal
ワコール

コロナとマークⅡの
岩手トヨペット
本社　盛岡市上田2丁目　TEL(51)3211（代）

株式会社　久保田鉄工
代表者　久保田　広一
八尾市南本町四丁目九番一九号
TEL0729—23—0292

上田茂行

東海溶材株式会社
本　社　清水市北脇242
支　店　浜松市下石田町1743の1
営業所　小山，東京，相模原，三島，富士，三保，焼津，大井川，掛川，豊田，名古屋，四日市，大阪，富山，広島

株式会社　横山商店
横山　豊
（第3回インターハイ準優勝清水商高主将）
清水市渋川468　TEL0543—45—3482

アサヒスポーツ
福井市松本3丁目4—2
TEL　0776—23—2555

広島県ハンドボール協会長
川上病院
広島市曙町2～33
TEL0822—61—3782

富士重工指定スバルサービス工場
（有）野田商会
野田　勉
（第9回インターハイ優勝清水商高選手）
清水市万世町1丁目69　TEL0542—52—6750(代)

学生衣料製造卸
株式会社　島屋
高岡市問屋町41

北陸電力株式会社
福井支店
福井市日之出1丁目4番1号　〒910
電話（0776）㉓1212番（代表）

屋内外電気工事設計施工
火災報知機設備施工
伊藤電機設備株式会社
代表取締役　伊藤仁和
福井市順化2丁目2番1号　〒910
TEL　営業部(0776)22-7800(代)　工事部21-2266(代)

ヨーロッパの味
タキザワハム
取締役社長　滝沢　武

ブリヂストンタイヤ（株）彦根工場
〒522-02
滋賀県彦根市高宮町211番地
TEL (07492) 2-8111 代表

不動産の　カントラ　大阪・堺
TEL　0722—33—0003
0722—22—2103
フドウサン

市民ハンドボールの芽

成果あげる小学生対策（名古屋）

林　正信

狭い場所で、多くの児童が簡単にでき、走、跳、投、すばやい動きが身につく運動にハンドボールがある。

このハンドボールの小学校指導会（大会）を二十三年間続けて行い、又、小学生ハンドボール教室を六年間開設している名古屋市の小学生ハンドボールについて報告したい。

第一回の名古屋市小学校ハンドボール指導会大会は、昭和二十七年二月、同市立桜山中学校で開かれた。この時の参加校は、男子四校六チーム、女子二校三チームであった。当時の同市学校体育連盟ハンドボール部長であった伊藤宗一氏（現椙山短大）や市内の小中学校教員、中村実吾氏、大野昌行氏、星野久氏などの努力によって、この指導会が生まれたのである。

昭和四十九年十一月に行われた第二十三回の指導会では、男子十校十二チーム、女子八校十チームが参加した。

ここ十年間、参加校がふえないのは、小学校の指導要領にハンドボールが含まれていないことが最大の原因である。

しかし、子供たちに、

写真・名古屋ハンドボール教室の風景

この競技を行わせてみると、どの子も、運動量の多いことやスピード感のあることに満足をしてくれる。こんなスポーツであるので、二十三年間も続けて行えた、と思っている。

◇

一方ハンドボール教室は、昭和四十五年四月に、愛知県ハンドボール協会の主催で、「愛知県小学生ハンドボール教室」として発足した。同協会独自で、県下の小学生に直接、参加を呼びかけたのである。

指導には、名古屋市内の小中高の教員、二十名があたった。

「安い会費で、子供たちに思う存分ボール運動に親しんでもらう」を合いことばに同協会が、特に力を注いだのである。

初年度は、小学校四、五、六年生男女百四十名が集まってきた。

ハンドボールの速い動きやゴールに思いっきりボールを投げ込んだときのそう快さが、参加児童全員に受け、好評のうちに、第一回の教室を終わったのである。

現在、同教室は、会員数小学校一年六年生男女百六十四名、指導員三十七名という日本一の規模をもつ、小学生のためのハンドボール教室に成長したのである。

これまでになったのは、第一回から会場を無償で提供してくださっているブラザー工業や、毎年募集時期にテレビやラジオで県民に募集を呼びかけてくださるＮＨＫ名古屋などの方々のご好意があったからだと思っている。

指導員も教員ばかりでなく、一般の会社員が六名おり、このほうの層も広めていこうと努めている。

現在、全国に、このような小学生のハンドボール教室は、規模の大小はあるけれども、豊中市、豊橋市、京都市、神戸市、岐阜県で開設されている。

この十一月三日には、全国の各県ハンドボール協会の普及部長が愛知県小学生ハンドボール教室の実態を視察し、全国普及のための第一回連絡会がもたれようとしている。

これからの小学生向けスポーツとして、大いに発展することを期待している。

（愛知県小学生ハンドボール教室部長、名古屋市立汐路小学校教諭）

◇ 愛知協会「名古屋小学生ハンドボール教室」指導教程 ◇

段階＼種目	フットワーク運動（ボールを使わない）	攻防の技能	パス運動	シュート技能	フットワークの運動（ボール使用）
第1段階	跳躍，バービー，かかとうち，片足たちかがみ，シグナルモーション，ダッシュ	ルールの説明 ・オーバーステップ ・オーバータイムス ・ダブルドリブル ・乱ぼうな行ない（押す，つかむ，たたく）	1人でのボール扱い上に投げ上げる。標的板へ投げるキャッチの仕方。対人パス	ステップシュート（スタンディング）	ボールおくり（頭 上／脚 下）
第2段階	2人組で押し合いシャドウボクシング 馬とびまたくぐりタッチゲーム 腕ぐみ回せん 手押しずもう	ゴールを使ってのパスゲーム ・5人1組でフォアード3，バック1キーパー1	対人パス(3～5ｍ) ショルダーパス アンダーパス バウンズパス	ワンステップシュート	ドリブル競走 ボールとり（3対1） ゴロのボールとり
第3段階	リレーゲーム ジグザグゲーム おにごっこ	2対1の攻防練習	ランニングパス2人で。（2～3ｍ） チェンジパス	ドリブルシュート	ボールとり（5人1組で） 3角パスの中でのボールカット
第4段階	ダッシュ・ストップ サイドステップ バックステップ（1人で）		ロングパス（10～15ｍ） ランニングキャッチ	ランニングシュート（ランニングキャッチからのシュート）	
第5段階	2人1組で ダッシュ・ストップ サイドステップ バックステップ	6人での攻げきのしかた 6人での守りかた 6対6の攻防	リターンパス 3人での クリスクロスパス	リターンパスからのシュート クリスクロスパスからのシュート	パスゲーム（5対5）

各地の記録

高校男子は佐賀農B

▼第28回佐賀県民体育大会ハンドボール競技（10月・佐賀東高）

▽一般男子1回戦（2試合）
佐賀教員ク 29―14 神埼ク
白石ク 27―10 三田川ク
▽同準決勝
佐賀教員ク 29―15 佐賀商高OB
B・S鳥栖 13―10 白石ク
▽同決勝
佐賀教員ク 23（12―2、11―9）11 B・S鳥栖
▽同女子準決勝
佐賀女高OG 12―5 神埼ク
神埼農高3年 18―10 神埼クB
▽同決勝
神埼農高3年 19（7―7、7―7、2―1、3―0）15 佐賀女高OG
▽高校男子準々決勝
佐賀東 7―6 神埼
佐賀農 9―5 佐賀西
神埼農 17―6 佐賀商
佐賀農B 22―4 鹿島実業
▽同準決勝
佐賀東 9―7 佐賀農
佐賀農B 12―11 神埼農
▽同決勝
佐賀農B 9（6―2、3―6）8 佐賀東
▽同女子1回戦（1試合）
佐賀東 9―1 嬉野商
▽同準決勝
佐賀東 8―1 神埼農1年
佐賀女 8―4 神埼農2年
▽同決勝
佐賀東 8（2―5、6―1）6 佐賀女

トヨタ車体、宿願の初優勝

▼第34回愛知実業団リーグ（9月名古屋市体育館）、女子は既報。

▽男子1部
大同製鋼高蔵 29―8 日本碍子
日本碍子 22―14 豊田織機
ブラザー工業 17―12 豊田織機
大同製鋼高蔵 18―15 新日本製鉄
トヨタ車体 23―2 ブラザー工業
大同製鋼高蔵 31―4 豊田織機
日本碍子 17―14 新日本製鉄
新日本製鉄 18―10 ブラザー工業
新日本製鉄 32―5 豊田織機
トヨタ車体 17―15 新日本製鉄
トヨタ車体 18―12 大同製鋼高蔵
日本碍子 21―8 ブラザー工業
大同製鋼高蔵 14―4 ブラザー工業
トヨタ車体 43―11 豊田織機
トヨタ車体 25―16 日本碍子

【順位】①トヨタ車体5戦全勝＝初優勝②大同製鋼高蔵4勝1敗③日本碍子3勝2敗④新日本製鉄⑤ブラザー工業⑥豊田織機

【2部順位】①自衛隊春日井5戦全勝＝初優勝②豊田合成4勝1敗③豊田工機・パイロットインキ・中部電力2勝3敗⑥トーメン5敗

▽1・2部入れ替え戦
自衛隊春日井（2部）23―12 豊田織機（1部）

三重国体近畿予選

＜代表決定記録＞
▽成年男子・一般第1～第3代表決定戦
京都（京都ク）26―9 滋賀（全滋賀）
兵庫（神戸製鋼）36―10 奈良（生駒ク）
大阪（湧永薬品）28―12 和歌山（丸善石油下津）
▽同第4・第5代表決定リーグ
奈良 10―16 滋賀
和歌山 24―13 奈良
和歌山 27―10 滋賀
【順位】①和歌山②奈良③滋賀
▽同・教員
大阪（大阪イーグルス）24―17 和歌山（和歌山教員ク）
▽成年女子
大阪（寝屋川ク）17―15 京都（京都ク）
▽少年男子第1代表決定戦
兵庫（高校選抜）18―15 奈良（高校選抜）
▽同第2代表決定戦予備戦
大阪（全大阪高校）18―8 京都（高校選抜）
▽同決定戦
大阪 21―12 奈良
▽少年女子
大阪（大阪高校選抜）7―4 兵庫（高校選抜）

▼第28回奈良県高校総体ハンドボール競技（9月・桜井商高）

▽男子A組1回戦（3試合）
桜井商 9―8 正強
生駒 13―4 東大寺
添上 10―5 奈良
▽同2回戦
橿原学院 9―4 桜井商
添上 13―6 生駒
▽同決勝
添上 24（15―5、9―5）10 橿原学院
▽同B組1回戦（1試合）
一条 12―10 十津川
天理 12―11 郡山
畝傍 18―9 榛原
▽同2回戦
奈良工 10―7 一条
畝傍 12―8 天理
▽同決勝
畝傍 23（10―8、13―7）15 奈良工
▽女子A組1回戦（2試合）
桜井商 5―4 短大付
帝塚山 7―2 榛原
▽同決勝
帝塚山 7（2―1、5―1）2 桜井商
▽同B組1回戦（1試合）
一条 9―4 十津川
▽同2回戦
添上 12―2 生駒
一条 12―8 郡山
▽同決勝
添上 9（4―2、5―2）4 一条

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一三六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五〇年十月二十五日印刷 昭和五〇年十一月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一-一-一
電話 大代表(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百五十円
(年間購読料二千五百円)

攻めるも 守るも

強いチーム。
例外なくオフェンス力とディフェンス力がバランスよくつり合っています。会社の中でも同じこと。臨機応変の攻撃力と完璧の守備力があって、はじめて会社の実績はあがります。
だから、OMRON電卓。最前戦にはハンディ・タイプ、オフィスには卓上タイプ…と豊富な機種のなかから、守備、攻撃のポジションに合わせてお選びください。

信頼のOMRON電卓シリーズ

機能とファッション性を追うオムロンエイト

OMRON. 88
¥5,500

メモリー・キーつきオムロンエイト

OMRON. 88M
¥75,00

16関数のパーソナル関数電卓

OMRON. 88SR
¥15,800

豊富な機能の12桁実用機

OMRON. 1217
¥19,800

●資料のご請求は本社PRセンタまで

立石電機株式会社 本社／〒616 京都市右京区花園土堂町10 075(463)1161大代